

平成25年度 富山国際大学 学務部自己点検評価報告書

I. 概要（全体目標・達成評価）

1. 教務系部門（教務課、情報センター、図書館）
2. 学生支援部門（学生課、キャリア支援センター、国際交流センター）
3. 基本情報

II. 委員会・部会（評価・課題）

1. 学務委員会
 - （1）学務委員会
 - （2）教養教育部会
 - （3）FD推進部会
 - （4）教職課程委員会
2. 図書館委員会
3. 情報センター運営委員会
4. キャリア支援センター運営会議
5. 国際交流センター運営会議

平成26年3月
富山国際大学 学務部

I. 概 要（現状と課題）

平成 23 年 6 月の事務組織改変により、教務系、学生支援系を統括した学務部組織が誕生した。このことにより、所管の委員会組織として、教務・学生支援系を 1 本化した学務委員会が教育内容から生活支援までのすべてを取り扱うこととなった。その他に教育支援としての図書館委員会、情報センター運営委員会、学生生活支援としてのキャリア支援センター、国際交流センターの各委員会から構成されている。

委員会は各学部の教員と職員で構成しているが、キャンパスが 2 か所に分かれていることから、大学本部のある東黒牧キャンパスと子ども育成学部のある呉羽キャンパスは、距離的な都合から Web を活用しながら情報共有を行っている。

平成 25 年度の各部門での主な取り組みは、以下に概要を整理した。

1. 教務系部門（教務課、情報センター、図書館）

教育の質を向上し、出口での確かな学士としての能力をつけることを命題に現在の教育内容、教育方法の見直しを始めている。まず、**3 つのポリシー**（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、デプロマポリシー）に関して、大学共通、学部ごとにそれぞれ明文化し、学生にとってわかり易い学びの環境を提供することに努めた。また、大学での学びを誘導し、理解を深めるための教育手法、**アクティブラーニング**による教育方法の実践も教員間の **FD 研修** の実施により共通理解が図られつつある。

さらには、教育方針が出口に反映されるよう、学生への学士力の向上に繋がる教育が実践の成果を見えるような評価指標作りが今後の課題である。

教育（主に授業）環境として、大学キャンパス整備はいずれの学部も学びをより高めるためにはまだ不十分であることから必要な個所からの改善も必要になろう。

情報分野では、情報機器の進歩により個人のパソコンやスマートフォンの利用が授業などでも進みつつあるが、利用の仕方によっては他人への迷惑行為にもなることから今後こうした指導の徹底が必要である。

図書館の利用状況はカリキュラム改訂により事前事後の学習や資格取得のための自習の場として前年に比べ伸びてきている。

以下は、主な自己点検評価項目である。

（1）教務課

【平成 25 年度実施 重要事項】

平成 25 年度は、以前に定めた「学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）に加え、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）を策定し、ホームページに掲載した。なお、次にカリキュラム・ツリーやナンバリングなどの科目の体系化につなげるための準備を行った。

富山国際大学における卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

【基本理念】

共存・共生の精神と知性を磨く教育を基本に、時代の潮流に対応できる、健全にして個性豊かな人材を育成して、国際社会及び地域社会への発展に寄与する。

富山国際大学は、所定の単位を修得し、以下のような能力を身につけたと認められる学生に卒業を認定します。

1. 人間性の向上：共存・共生の精神、時代の潮流へのアプローチと専門の枠を超えた人間として必要な知識、技能、思考法、倫理観を身につける。
2. 専門性の向上：各学部のそれぞれの教育目標に基づき、講義、演習、実習を通して、専門分野に関わる基本的知識・技能や知的学識を習得し、専門的素養を身につける。
3. 社会性の向上：大学内外での学修を通じて、人々と協力して課題などを解決できる、社会性を持った自立した人間になったと実感できる力を身につける。

現代社会学部 ディプロマ・ポリシー

現代社会学部では、

「これからの 21 世紀を支える国際感覚を持つと同時に、地域に精通し時代の潮流に対応できる実践的な人材を育成すること」を **理念・目標** に掲げています。このような理念・目標を踏まえて、所定の単位を修得し、以下の 4 つの能力を身につけたと認められる学生に、卒業を認定します。

1. 「人」としての能力（人間性の向上）
国際化・情報化が進む現代社会で生きていくのに必要な社会常識や基礎的能力を身につけ、自分の力で考えて行動することができる。
2. 国際人としての能力（専門性の向上）
日本語、英語、北東アジア地域の言語学習、フィールドワーク・ボランティア活動等で語学力や国際感覚を高め、その能力を国内外での交流やビジネスの場で発揮できる。
3. スペシャリストとしての能力（専門性の向上）
観光・環境デザイン・経営情報等の専攻で修得した専門知識や技能・資格を応用し、現代社会で生じた様々な課題の解決に、自分から進んで取り組むことができる。
4. 社会人としての能力（社会性の向上）
グループやチームのなかで、他の人々と協調しながら目標の実現に向けて自分

子ども育成学部 ディプロマ・ポリシー

子ども育成学部では、

「次代を担う心身ともに健やかな子どもの育成を通して、地域社会の発展に貢献できる保育・教育・福祉の人材を養成すること」を **理念・目標** に掲げています。このような理念・目標を踏まえて、所定の単位を修得し、以下の資質・能力を身につけたと認められる学生に、卒業を認定します。

1. 「人」としての資質・能力（人間性の向上）
現代社会を生きる主体的な生活者として、また子ども育成を担う専門的職業人として必要な、幅広い知識と教養を身につけている。
2. 教育・福祉・保育の専門職としての資質・能力（専門性の向上）
子どもの生活・発達の特徴と家庭・地域・社会環境との関係性について理解し、子ども育成の理念と専門的知識・技能、実践力を身につけている。
3. 地域に生きる専門職としての資質・能力（専門性の向上）
地域の特色ある教育・福祉・保育の実践に学び、地域に愛着と誇りを持ち、地域に根づいた教育・福祉・保育の実践力を身につけている。
4. 21 世紀を生きる社会人としての資質・能力（社会性の向上）
国や地域を超えた広い視野、人間信頼と共同連帯の精神を持ち、生涯にわたって自己を高める努力を続けようとする意欲と態度を身につけている。

富山国際大学の教育理念・目標

共存・共生の精神と知性を磨き、健全にして個性豊かな人格を形成することを基本的な教育理念として、国際化、情報化、少子高齢化、環境との共生の時代において、国際社会及び地域社会の発展に貢献できる人間を育成する。



① 教育課程並びに履修に関すること

【実施計画・内容】

教学部門の根幹業務に関わる、学則・カリキュラム整備、学生便覧・講義要綱作成、履修登録と出欠管理について、学生サービスへのサービス低下につながらないよう、学生に常にわかりやすく、バックアップできるよう改善しながら業務遂行していく。

【評価・課題】

平成 26 年度から運用する学則改正（現代社会学部・子ども育成学部）について、両学部の教育目標等に沿って書類作成・届出手続き等を行った。

現代社会学部 改正趣旨

(1) 英語教育にかかる配当年次の充実

学生の英語力を強化することで短期・長期留学を促進し、早期からグローバル人材の育成を目指すため、従来の実践英語Ⅰ・実践英語Ⅱの配当年次を 1 年次から開始する。

(2) キャリア科目の配当年次の弾力化

秋期入学生の受講に対応するため、従来の春期入学生に通年で実施してきたキャリア科目に対して、 Semester 一制を導入することにより、入学の時期に関係なく全学生がキャリア教育を受講することができるようにする。

(3) インターンシップ受講の弾力化と充実

従来 3 年次で実施してきた「インターンシップ」体験の機会を全学年で「インターンシップ」体験を積み重ねることを可能にし、学生のキャリアスケジュールに応じた履修の機会を提供することで、「社会人基礎力」（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）の確実な定着を目指す。また、体験先は国内と同様に海外での体験も単位認定の対象とする。

子ども育成学部 改正趣旨

(1) 教養科目の再編成

富山国際大学の教育理念・目標に対応して、教養科目の科目区分構成を再編成し、国際関係科目やキャリア支

援科目の新設などにより、教育効果の更なる向上を図る。

(2) 専門科目の調整等

学部開設4年間の教育実績を踏まえ、専門科目について授業科目の順序性・系統性、必修・選択の区分、開講年次の見直し等の調整を行い、子ども育成の専門職を養成するための教育効果の向上と教育の質保障を図る。

(3) 「大学コンソーシアム富山」単位互換科目の開講

平成25年度開設の大学コンソーシアム富山の単位互換授業の開講科目「とやま地域学」を専門科目区分「富山の子ども育成」に加え、地域に根づいた専門教育の向上を図る。

② 産業界GPに関すること

【実施計画・内容】

本事業は、産業界のニーズに対応した人材育成の取組を行う大学・短期大学が地域ごとに共同して地元の企業、経済団体、地域の団体や自治体等と産学協働のための連携会議を形成して取組を実施することにより、社会的・職業的に自立し、産業界のニーズに対応した人材の育成に向けた取組の充実が図られるよう、国として財政支援を行うことにより、幅広い職業人養成に比重を置く大学の機能別分化に資することを目的とする。

本学では、中部地区23大学（5短期大学を含む）が連携して、取組名称「中部圏の地域・産業界との連携を教育改革力の強化」のもと、アクティブラーニング（※）を活用し、地域・産業界と連携を通して、教育機関として自ら前に踏み出し、考え抜き、チームで働き、チャレンジする教育改革力の成長を目指すものである。そのために連携校では共通の取組テーマにより教育改善を推進する。

なお、本事業は平成26年度に終了する。

【評価・課題】

1. 平成25年度の成果

本事業において富山国際大学は、①アクティブラーニングを活用した教育力の強化、②地域・産業界との連携力の強化の2つを柱とした事業推進を図ることになっている。

1) アクティブラーニングを活用した教育力の強化

① アクティブラーニングの採用

平成25年度も引き続き、学生の学習意欲の増進と主体的な学びの促進を図るため、各授業科目のシラバスに「到達目標」、「キーコンピテンシー（重視する能力）」、「教育方法（授業方法）」を明記した。教育方法については、どの方法によってアクティブラーニングを行うかをシラバスに示し、それを重視した教育実践を行った。

② 教育実践の成果測定

前期および後期に授業評価アンケートを実施した。今年度のアンケートでは、科目ごとに掲げた授業達成目標に対する学生の評価やアクティブラーニングに対する学生の評価の測定に重点を置いた。また、現代社会学部1.2年生を対象に、外部の評価ツールを用いて、大学生活で得た知識や学力、大学生活に対する意識について調査を実施した。

③ 優れた教育実践の経験交流および共有化

現代社会学部では、3回学部FD研修を実施した。アクティブラーニングの手法の相互学習、授業参観を通じた教員の授業方法についての意見交換を中心に行った。3月にはFD研修会を開催し、外部から講師を招き、第三者の意見も取り入れながら今年度アクティブラーニング実践について総括を行った。また、北陸チームの2回の研修会に現代社会学部のほとんどの教員が参加し、アクティブラーニングの知識の獲得に努めた。

④ 学生の成長記録の蓄積・活用

既に稼働している「キャリアポートフォリオシステム」を教員が積極的に活用し、学生の教育指導を効果的に進めるよう、現代社会学部長を中心に啓発の取り組みを進めている。

2) 地域・産業界との連携力の強化

① 地域・産業界との教育連携

短期インターンシップや各授業科目における地域・産業界との教育連携を引き続き推進するとともに、正課科目である「地域づくり実習」、「専攻実習」、「専門演習Ⅱ（卒業研究に相当）」、「キャリアデザイン講座」、正課外活動である「夢への架け橋助成事業」において一層の地域・産業界との教育連携を図った。

また、本学が主幹校となり、12月に北陸地区大学短大連携FD研修会を開催した。基調講演・議論を通じて企業が求める人材像についての意見を把握し、それらを本学の演習型長期インターンシップやキャリア系科目に反映し改善に努めた。

② 海外産業研修（海外版インターンシップ）の実施

中国に進出している日本企業での現地インターンシップを推進するため、進出地域に立地する中国の大学との話し合いを進めている。

2. 平成 25 年度の活動評価

1) アクティブラーニング／インターンシップの強化

平成 26 年度末までの目標：

- ① 各授業において、対話型授業、演習・反復型授業、グループ学習、地域フィールドワークなどの「アクティブラーニング」を 1 つ以上実践し、卒業までに達成すべき学修成果指標（アウトカム指標）を設け、その達成に各授業科目がどう寄与しているのかを評価・分析し、学修成果の達成度を評価する。
- ② 効果測定の取り組みを通じて優れた教育実践を FD 活動等で明らかにし、学外者のアドバイスも受けながら、本学のベストプラクティス教員から学ぶために、優れた教育実践を可視化し、重要なノウハウを全体の財産としてデータベース化し共有化を行う。

平成 25 年度評価：2

評価指標

- 1：目標に向かってスタートした ⇒ 各科目の学修成果指標、教育実践における評価方法等の情報を共有し、検討が始まった。
- 2：目標に近づいた ⇒ 各科目の学修成果指標、教育実践における評価方法等ができ、改善策を策定した。
- 3：目標に達した ⇒ 各科目の学修成果指標の達成度の評価、改善策をもとにアクティブラーニングを実行した。
- 4：目標を上回った ⇒ 各授業科目のアクティブラーニング実践形式数が増え、ベストプラクティス教員の教育実践の可視化、情報共有化が図られた。

2) 地域・産業界のニーズの把握と反映

平成 26 年度末までの目標：

- ① 地域・産業界がどのような人材育成を望んでいるのか（以下「地域・産業界ニーズ」）を調査し、把握する。
- ② 調査結果等をもとに、本学が育成する人材像に関して FD 研修などで協議する。
- ③ 地域・産業界ニーズと、本学の人材育成像を踏まえ、産業界の方々と交えた「外部評価委員会」において教育改善策や地域連携方策に関する意見交換を行う。

平成 25 年度評価：2

評価指標

- 1：目標に向かってスタートした ⇒ 地域・産業界ニーズを把握し情報共有した。
- 2：目標に近づいた ⇒ 地域・産業界ニーズと本学の人材育成像などを確認・把握した。
- 3：目標に達した ⇒ 地域・産業界ニーズと本学の人材育成像などを踏まえ、教育改善策や地域連携方策を策定した。
- 4：目標を上回った ⇒ 教育改善策や地域連携方策を実行に移した。

③ その他

【実施計画・内容】

① 大学コンソーシアム富山について

富山県大学連携協議会を発展解消され、平成 25 年度より大学コンソーシアム富山が創設された。その下部組織である教育連携部会において、教務課としては「単位互換」にかかる事業を展開する。

平成 25 年度単位互換科目「とやま地域学」事業計画

1. 開講時期 9 月 4 日(水)～7 日(土) 1 日 4 コマ×4 日間の集中講義
7 日(土) = 県内研修 (貸切バス)
■県内研修先
A.M. 9:00 頃 高志の国文学館(出発) → 立山カルデラ砂防博物館 → 立山博物館
12:30 頃 昼食 (富山国際大学 東黒牧キャンパス)
P.M. 廣貫堂資料館 → 15:30 高志の国文学館(到着)
2. 開講場所 講義：高志の国文学館 101 研修室
3. 対象学生 富山大学、富山県立大学、高岡法科大学、富山短期大学、富山福祉短期大学、富山高等専門学校、富山国際大学の 1 年次生中心 (約 80 名)
※一般(市民)聴講生も含む。

- ② 公益財団法人富山県ひとづくり財団助成金について
毎年、富山県外郭団体の標題財団が、県内の高等教育機関の教育研究活性化推進をすべく、一定の事業に助成支援をしており、その申請・実績報告業務を実施していく。
- ③ 公益財団法人富山第一銀行奨学財団助成金について
毎年、標題財団が、県内の高等教育機関の研究活性化を推進するため、本学に一定の助成支援をしており、その申請・実績報告業務を実施していく。
- ④ 委託訓練事業について
平成 27 年 3 月の北陸新幹線の開業を契機として、観光分野での雇用拡大が期待されることから、富山県（商工労働部職業能力開発課・技術専門学院）より離職者の再就職を支援するため、観光ビジネス人材育成支援訓練を本学へ委託したい旨要請があり、その要請を受け業務を遂行していく。

【評価・課題】

- ① 大学コンソーシアム富山について
実施計画に基づき、初めて開講した大学コンソーシアム富山単位互換科目「とやま地域学」に、県内学生、一般聴講生を含めた受講人数は、定員どおりの 80 名であった。
富山県に関する様々な情報を、資料やデータなどから、日本や国際社会と比較し、富山の強み、問題点などの特色を知ること、そして 21 世紀の富山活性化策について考えるため、4 日間にわたって計画どおり実施できた。
県内のフィールドワークは、生憎の雨で時間がタイトスケジュールだったのと、借りていた高志文学館が朝早く開館されないため、準備時間がなかったこともあり、平成 26 年度は問題点を解決した内容にする。
- ② 公益財団法人富山県ひとづくり財団助成金について
平成 25 年度は、申請に基づき次のとおりの助成状況となった。

【受給状況】

- ・2 号 シンポジウムの開催に対する助成 現代社会学部 1 件 子ども育成学部 1 件
 - ・3 号 公開講座の開催に対する助成 現代社会学部 1 件
 - ・4 号 著名研究者等による学術講演会の開催に対する助成 子ども育成学部 1 件
 - ・5 号 地域課題解決枠 現代社会学部 1 件
 - ・7 号 学生確保推進支援事業 大学全体 2 件
 - ・7 号 大学活性化支援事業 地域交流センター 1 件
- ③ 公益財団法人富山第一銀行奨学財団研究助成金について
平成 25 年度は、申請に基づき次のとおりの助成状況となった。

【受給状況】

<現代社会学部 3 件>

- ・「自立支援型村落開発援助の有効性に関する研究」
- ・「富山県における新しい観光の在り方に関する研究」
- ・「要約筆記支援システムの研究」

<子ども育成学部 3 件>

- ・「教員のための理科授業用天体写真の撮影マニュアル作成に関する研究」
- ・「富山県の小学校国語科教育の系譜」
- ・「行政と家庭教育についての歴史的研究」

<地域交流センター 1 件>

- ・「地域社会における生涯学習の意義と方向性に関する研究」

④ 委託訓練事業について

本年度初めて、富山県からの要請を受け、観光関連業種に対応できる基礎知識や接客等のノウハウを習得するとともに、現場での企業実習を導入し、実践能力を修得するために、本学が開講する授業等を活用しつつ事業運営し、概要は次のとおり行った。

- ・訓練科名 133「観光ビジネス科」
- ・訓練期間 平成 25 年 10 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日
- ・訓練生数 受入定員 10 名 受入人数 7 名 修了者数 4 名（3 名は途中就業先等決定のため退校）
- ・実習先 (有)味の笹義、(株)エコロの森、(株)エヌトラベル、(有)西部トラベル、富山地方鉄道(株)

(2) 情報センター

【課題】

特筆すべきことはないが、図書館の課題に対して前向きに検討する必要がある。

(3) 図書館

【実施計画】

東黒牧キャンパスと呉羽キャンパスの入館者数や貸し出し冊数の増加のための工夫や、推薦図書の周知方法の工夫などを行う。

【実施内容】

図書館利用について教員との連携や、オリエンテーションなどでの告知などで、図書館の利用促進を図った。

【評価と今後の課題】

本年度の入館者数・貸し出し冊数について、特に東黒牧キャンパスにおいては平成24年度入館者数は14,442人、貸し出し冊数は1,082冊であり、入館者数については約28%増、貸し出し冊数については約17%増であったことから、概ね教員との連携や告知等が浸透したものと思われる。なお、今後はさらに学修意欲を高めるような策を提案し、貸し出し冊数の増加に繋げたい。

【基本情報】

・貸出冊数

＜東黒牧キャンパス＞

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
合計	大学生	冊数	90	121	110	106	33	15	127	121	95	82	32	4	936
		人数	51	90	85	64	19	10	88	82	60	50	18	3	620
	研究生	冊数	2	3				1	1	1	4	2			14
		人数	2	2				1	1	1	3	2			12
	聴講生	冊数		2	2				1						5
		人数		2	2				1						5
	大学教員	冊数	23	33	22	5	28	11	20	13	16	27	16	5	219
		人数	6	7	8	3	9	3	6	4	5	10	5	2	68
	職員	冊数	2	4	1	1		1	2	4	1	2	1		19
		人数	2	3	1	1		1	2	3	1	2	1		17
	臨時職員	冊数	3	3			1	6	2	5	3	1	1		25
		人数	3	2			1	4	2	2	1	1	1		17
	学外者	冊数	6		6	2		5	2	1	5	6	3	8	44
		人数	2		2	2		3	2	1	2	2	2	3	21
	小計	冊数	126	166	141	114	62	39	155	145	124	120	53	17	1262
		人数	66	106	98	70	29	22	102	93	72	67	27	8	760

＜呉羽キャンパス＞

短大図書館利用者を含む（1月～3月まで機械の故障によるカウントでせず。）

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
合計	大学生	冊数	22	223	157	190	85	17	158	162	215				1229
		人数	16	117	77	94	33	8	77	82	103				607
	短大生	冊数	211	245	332	131	69	38	195	117	280				1618
		人数	123	154	162	83	29	16	108	72	153				900
	大学教員	冊数	19	24	30	22	10	4	27	6	26				168
		人数	3	6	8	6	3	1	6	2	7				42
	非常勤講師	冊数	21	30	35	51	19	9	13	20	32				230
		人数	13	12	13	15	6	3	9	9	10				90
	高校専任教員	冊数								3	5				8
		人数								1	1				2
	短大教員	冊数	26	35	54	46	53	15	32	36	28				325
		人数	11	18	20	20	19	10	13	12	12				135
	職員	冊数	11	11	11	26	22	14	10	17	14				136
		人数	4	5	6	14	11	5	7	9	7				68
	幼稚園	冊数	10		20	8	17			1					56
		人数	1		2	1	2			1					7
	小計	冊数	320	568	639	474	275	97	435	362	600	0	0	0	3770
		人数	171	312	288	233	103	43	220	188	293	0	0	0	1851

・入館者数及び開館日数 <東黒牧キャンパス>

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
入館者数	1,999	2,339	2,059	2,181	622	404	2,352	1,920	1,573	1,771	822	460	18,502
開館日数	20	21	19	23	19	20	24	20	18	19	19	20	242
平均入館者数	100	111	108	95	33	20	98	96	87	93	43	23	76

【課題】

特筆すべきことはないが、図書館の将来運営に関する課題として、図書館と情報センターの機能を融合させた新しい図書館の検討をすすめる必要がある。

2. 学生支援部門（学生課、キャリア支援センター、国際交流センター）

2つのキャンパスが離れていることから、十分な施設設備への予算措置が厳しい状況になるが、東黒牧キャンパスにあっては、生活上の不便を取り除くため、スクールバスの運行や自然環境との共生の場にふさわしい緑化・花づくりなど心地よい環境づくりを目指している。さらに食堂の環境改善や文房具などのミニ販売など学生にとって不可欠な生活環境の整備を少しずつ取り組み始めたところである。

経済的な支援を要する学生への奨学金支援、諸活動入学生への文武両道精神の醸成、留学生との交流など、「夢架け事業」など学生間の交流を促進している。

学生自身の活動を促すための学友会やクラブ・サークルの活動も学生の主体性を損なうことなく教職員の指導や支援し、大学行事であるスポーツ文化交流会、大学祭などにも職員、教員との連携によって行っている。

東黒牧キャンパスでは、平成22年、23年と続いて起きた交通死亡事故を教訓に、現在も学生と職員とで交通安全キャンペーン活動を3年間、毎月1回継続して行っている。このことは東黒牧キャンパスで過ごすものにとって痛ましい事故の記憶を風化させない活動として今後も継続していく予定である。

国際交流に関する支援では、主として現代社会学部の留学生へのケアや本学学生の留学をサポートしている。平成25年度は、2年に一度の国際交流シンポジウムを開催し、初めて子ども育成学部の学生も聴講した。

キャリア支援に関しては経済状況の好転と共に現代社会学部では就職率100%を達成し、また有力企業への採用の占める割合も伸びた。一方、子ども育成学部では、専門職である小学校教諭、保育・幼稚園教諭の採用が前年度を維持し、社会福祉士の合格率は全国でも上位の合格率となり、順調に出口での成果をあげている。

以下は、主な自己点検評価項目である。

（1）学生課

（1）奨学金に関すること

【実施計画】

経済的に困難な状況にある学生の修学継続を支援するため、本学独自の各種奨学金制度がある。日本学生支援機構奨学金、地方公共団体・財団等の奨学金についても、学生および保護者からの相談に応じ、適切な助言、受給に向けた対応にあたっている。本学独自の奨学金としては、経済的理由により学費等の納付が困難である者、成績優秀者、諸活動で成果を収めた者、海外留学者（半期）、外国人留学生を対象にした制度がある。奨励金として、学業成績または諸活動において前年度に著しく優秀な成果を収め、他の在学生の模範であると認められた2年次以上の学生に給付する制度である。

【実施内容】 富山国際大学奨学金

富山国際大学 奨学生比較表				
奨学種類		免除額	H25 予定人数	H25 実績人数
(第1種)	経済的理由	980,000	1	0
在校生		490,000	2	2
		465,500	0	2
		275,000	0	3
		小計		
(第2種)	特別奨学生 選抜試験	850,000	4	1
受験生		575,000	4	7
		275,000	0	1
		小計		
(第2種)	特別選抜 試験特待生	550,000	14	13
在校生		275,000	9	5
		小計		
(第2種)	諸活動 特待生	575,000	0	
受験生		425,000	4	4
		375,000	4	4
		275,000	6	6
		300,000	2	2
		150,000	4	4
		小計		
(第2種)	諸活動 特待生	550,000	2	2
在校生		275,000	29	18
		183,000	3	1
		小計		
(奨励金)	成績優秀者	100,000	12	12
	諸活動優秀者	100,000	6	2
	小計			
	合計			

日本学生支援機構等奨学金等

奨学財団名等		人 数	備 考
日本学生支援機構		209	第1種 73人 第2種 136人
富山第一銀行		1	
富山県		8	
各市町村		3	
交通遺児育英会		1	
あしなが育英会		2	
留学生	富山県	6	
	日本学生支援機構	5	
	朝日国際	5	

【評価と今後の課題】

奨学生について、経済的に授業料が支払えない理由で相談が増加している状況であり、大学の奨学金については、一人でも多くと考え、予算内で定められている一人あたりの奨学金の額を減額して、対処している状況である。オリエンテーションで、学生に対して他の機関の奨学制度を情報提供して、大学生活ができるよう努力をしている。保護者との話し合いが少ないように感じられるので、保護者にも情報提供し、学生本人と相談しやすい環境を作っていく。

(2) イベント関係に関すること

大学祭

【実施計画】

現代社会学部 平成25年10月12日(土)～13日(日) 東黒牧キャンパス

子ども育成学部 平成25年10月19日(土)～20日(日) 呉羽キャンパス

※ポスターは両学部で共通のポスターを作成

【評価と今後の課題】

現代社会学部については、後期授業が始まって2週間目に開催なので、準備及び学内でのPR不足もあり、次年度は1週間～2週間遅らせて開催する方向で検討。子ども育成学部につきましては、富山短期大学と開催日が同時であり、中心的なステージを共同で使用また委員との話し合いにより詳細な事を決定している状況であり、大学として自由に出来ない部分もある。

スポーツ文化交流会

【実施計画】

1. 目 的 スポーツ及び文化系競技等を通して、富山国際大学両キャンパスの学生（留学生を含む）及び教職員相互の親睦を図る。

2. 期 日 平成25年5月28日(火)

3. 会 場 富山国際大学東黒牧キャンパス

4. 参加者 現代社会学部1・2年（全員参加：教養演習出席振替）3～4年（自主参加）

子ども育成学部1・2年（全員参加） 3～4年（自主参加）不参加の3年の学生はボランティア活動等

職藝学院 全学生（自主参加）参加者要事前申請 スポーツ系のみエントリー可

スポーツ系の各競技にチーム数の制限を設ける

不参加3年生の活動（子ども育成学部）10時～11時30分

ボランティア活動 呉羽キャンパス周辺の道路のごみ清掃

※雨天時：E館講義室・ラウンジ清掃(黒板、机等)

【評価と今後の課題】

学生中心に計画を立て実施し、両学部の交流親睦を図るのが目的だが、学生同士の親睦がそんなに図られていないのが現状である。準備中及び開催当日に学生同士が話し合える工夫が必要であると考えられる。準備段階で、学生だけで創意工夫をさせ、教職員が見届けるような体制にして、学生が自立して実施することにより、親睦が図られる。

私学祭について

富山県私学祭

【実施計画】

私学の美術展

日時 平成25年11月23日(土)～25日(月)10時～17時(最終日は16時まで)

※講評会は、23日(土)開場式(10時～)終了後、開催。

場所 富山県高岡文化ホール

内容 私立幼稚園の園児、私立中学高校の生徒、私立大学・短期大学・専修・各種学校の学生による絵画、書等の芸術作品展示

【評価と今後の課題】

大学は文系であり、サークル及び個人的に活動している学生の作品であり、専門的な指導の下で作品を作成していない中、作品を提出している状況である。他大学より、作品が少ない事もあるが、私学祭のことを早い時期に周知し、計画的に余裕をもって作品に取り組む工夫をする。

卒業記念パーティー

【実施計画】

平成24年度 第20回 富山国際大学卒業記念パーティー計画概要について

日時 平成25年3月18日(月) 受付 15:30～16:00

宴会 16:00～18:00

会場 ホテルグランテラス富山(旧 名鉄トヤマホテル)3階 「瑞雲の間」

主催 富山国際大学後援会 後援 富山国際大学同窓会

出席案内先 平成24年度卒業生(165名)[内訳:現代社会学部101名 子ども育成学部64名]

後援会 会長含む役員(22名)

同窓会 会長含む役員(11名)

理事長、学長 学部長、教職員等(88名)

非常勤講師(69名)

クラブ指導者(5名)

案内先合計 360名

見込み出席率 55% 見込み参加者合計 約190名

司会・進行 現代社会学部学友会・子ども育成学部学友会

会費 卒業生・教職員 一人 3,000円

【評価と今後の課題】

昨年度より、学生の出席率が高くなり、盛大に実施することができた。計画・司会・進行した学生と学生課教職員でパーティー終了後、反省を実施した。その中で、成功例・失敗例と個々に思っていることがあり、これを、次回の担当者に引き継いで行くことにより、年々良くなっていく。ただ、現在のメンバーが来年携わらない事があるので、携わってもらえるよう工夫が必要である。

(3) クラブ関係に関すること

【実施計画】

平成25年度 クラブ会総会

日時 平成26年3月3日(木)14:00 場所 厚生棟

1. 平成26年度 クラブ会 会長等の選出について 2. クラブ活動について・学生団体継続願い等について
・施設(大学会館・体育館等)の利用について・クラブへの補助について・各種届出について(遠征届・バス利用申請等)

3. 平成26年度 クラブ紹介について 4. 平成26年度 スポーツ文化交流会について

5. スポーツ安全保険について6. その他

【実施内容】

平成25年クラブ一覧

平成25年度 クラブ名簿							
東黒牧キャンパス				呉羽キャンパス		平成25年5月24日現在	
	ク ラ ブ 名	顧問	人数		ク ラ ブ 名	顧問	人数
1	硬式テニス部		3	1	吹奏楽部		6
2	硬式野球部		27	2	バトミントンサークル		6
3	サッカー部		15	4	バスケットボールサークル		27
4	女子ハンドボール部		10	5	バレーボールサークル		
5	男子バスケットボール部		9	6	ダンスサークル		16
6	ボート部		26	7	アカペラサークル		20
7	軽音楽部		12	8	演劇サークル		5
8	茶道部		4	9	Harness(ボランティア)サークル		5
9	吹奏楽部		15	10	美術サークル		12
10	ボランティア部		2	11	Photo		6
11	ES(enjoy sports)		9	13	音楽サークル		11
12	環境サークル		12	15	へそ		15
13	芸術サークル		3	16	JASSサークル		10
14	国際交流サークル		19	17	フットサルサークル		11
15	中国サークル			18	体操競技サークル		1
16	釣りサークル		14	19	天文同好会サークル		7
17	テーブルゲームサークル		6	20	富山国際大学小学校教育研究会		28
18	バドミントンサークル			21	女子軟式野球サークル		2
19	ビーチボールサークル		6	22	自転車サークル		4
20	B研(ビジネス資格研究会)		6	23	テニスサークル		10
21	フリースタイルスキーサークル		1	24	ダーツサークル		5
22	放送サークル		8	25	TUINS English Club		1
23	ラベンダーサークル		3	26	ビーチボールサークル		
24	陸上競技サークル			27	富山国際大学SSW研究会 (スクールソーシャルワーク研究会)		
25	大学祭実行委員会				合計	208	
		合計	210				

【評価と今後の課題】

強化クラブの及びサークルなどに所属している学生の減少が続いている。これについては、オリエンテーションの部・サークル紹介の内容を平成26年度より変更する。(各部・サークルのチラシを学生課で集約し印刷をしていたが、個々にチラシ等を印刷して、各部・サークル積極的に勧誘する。)

また、サークルの学生確保が難しく、長続きしないこともあり、多くの学生が何らかの部・サークルに所属してもらうように、学友会・クラブ会が中心になって検討している状況である。

(4) 同窓会に関すること

【実施計画】

同窓会報は、年に1回発行。

発行日 2014年3月18日(卒業式当日配布の場合)

発行部数 3,000部

【評価と今後の課題】

同窓会の行事が少ないため、記事内容にあまり変化がない。今後、同窓会と検討していく。

また、同窓会役員との会合の場が少なく、回数を増やしていく場を設ける。

(5) 大学コンソーシアム富山に関すること

【実施計画】

実施日時平成25年7月13日(土)～7月14日(日)

実施場所いこいの村 磯波風

参加対象大学コンソーシアム富山 構成機関の学生会等所属学生◇参加状況参加者43名

富山国際大学 教職員 2 人 学生 7 人

県内の各大学等において学生会やサークル等のリーダーとして活動する大学生等を対象に、課題解決手法を修得するための研修を行い、リーダーとしての資質向上を図る。

また、大学等の枠を越えた研修により、参加する学生間の交流・連携を深め、ひいては学生の主体的な活動による大学等間の連携の推進を目指す。

【実施内容】

【1 日目（7 月 13 日）】

（1）開会式、オリエンテーション 9:30～9:45 開会あいさつ 富山県立大学生部長 中村 清実 教

（2）研修 9:45～12:10

①アイスブレイク

社会行動特性の「タイプ（CPSA）」について、グループ内で議論しながら検証し、人間関係構築の基礎や、「メンバーのそれぞれの持ち味を生かし、弱みをカバーしあうことでチームがよりよく機能する」ことを理解しました。

②チームとは

いろいろな大学から成る「チーム」に分かれ、「チーム」と「グループ」の違いを理解し、チーム形成をしていく過程から、一人ひとりを生かし協力し合うことの大切さについて学びました。

③課題への取り組み

「南砺市の活性化」を目標としてチームで方策について検討。予備知識を得るため情報収集しつつ作業を進めました。

同じ種類の学生たちが集まり、自分たちの強みや弱みを話し合い、社会行動特性の「CPSA」について考察

（3）研修 213:00～15:00

①プレゼンテーションの心構え プレゼンテーションの流れや心構えについて学びました。

②第 1 次発表（プレゼンテーション実践、質疑応答、評価）

チーム単位で、「南砺市活性化」方策の方向性について発表しました。

他チームの学生や教員・スタッフからの質疑、指摘や評価を受け、次の改善につなげます。（夕食後（～21:30）

チームとしての提案を一旦まとめ、書き出してチェック。発表に備えます。

（4）講演「地方におけるコンテンツ産業の可能性」15:15～17:00

（株）ピーエーワークス専務取締役菊池宣広氏

南砺市に本社がある（株）ピーエーワークス。舞台モデルとなる地域と連携することで「地域の活性化につながる『きっかけ』をつくり、地域に恩返ししたい」との思いも込めて、アニメーション制作を続けておられます。

当日は、専務取締役の菊池さん（富山大学出身）から、主な作品等のご紹介も交えながら、「地域活性化」について考える手がかりをお話いただきました。

数々の名作で、学生もよく知る会社。興味津々。菊池さんと直接対話。貴重な体験です。

「富山についてどう思うか。」菊池さんからの問いかけに、学生は緊張しつつ答えていきます。

【2 日目（7 月 14 日）】

（5）研修 38:30～10:30

①相互討論

「ワールドカフェ方式」を体験。

まず、チームから一旦離れ、大学ごとにグループをつくり、前日のグループワークでの各チームの悩みなどを説明し、自由に意見交換を行いました。

②チームでの作業再開

「ワールドカフェ」でもらった意見をチームに持ち帰り、ステップアップ。

自大学の仲間と久しぶりに、真剣に意見交換。ステップアップのための考え方を解説

（6）研修 410:40～12:10

「プレゼンのポイントは？」

チームの意見を確定し、発表準備です。

論理的に組み立てられているか、どのような発表が効果的か、メンバーで練っていきます。

（7）研修 513:00～14:50

○成果発表

それぞれの班で考えた「南砺市の活性化」策について、これまでの研修で得たスキルを意識しながらプレゼンテーションを行いました。

オーソドックスな「発表」に加え切り絵の活用、寸劇など、工夫を凝らしました。

(8) 意見交換 14:50～15:10

苦労したこと、頑張ったこと、学んだこと、仲間に感謝していることなど、研修全体を振り返って、班ごとに意見交換を行いました。

(9) 閉会式 15:15～

- ・引率の教職員からのコメント
- ・閉会あいさつ富山県立大学学生部長中村清実教授

【評価と今後の課題】

アンケートで、感じたことがあれば何でも自由に書いてほしい内容が以下の内容であり、委員会としての評価、課題について検討していない状況であり、内容を検討し次回に生かして欲しい。

・教員の参加はやめてほしい。「業務負担の軽減」が重要な課題になっている。内容を考えても教員が参加する必要性を感じられない。ただいだけで指導するわけでもない。率直に言って時間の無駄である。学生だけで自主的に参加すればよい。「業務負担の軽減」について真剣に考えていただきたい。・宿泊をかねたものでなく、日帰りで数日間の開催でも良いと思います。・CPSAのグループ分けが大変興味深く、その後のプレゼンに向けてのグループ活動の様子を見るとCPSAの特徴を思い浮かべながら見ていました。学生達は、社会に出る前に本日の様な研修を受けることができ、大変有意義だと思います。社会人になったときに、ぜひ生かしてほしい。

(6) 夢への架け橋助成事業に関すること

【実施計画】

募集期間：平成25年4月1日(月)～5月15日(水)【必着】

1 目的

この助成事業は、本学の学生の活力を生かすとともに、地域との連携を更に深め地域に貢献することにより、本学の活性化に資することを目的に、本学の学生から研究・活動等の事業計画を募集し、その事業の実施に対し本学が助成・支援を行う。

2 助成対象事業

本学に在学する個人又はグループで積極的に研究・活動等を行うものとし、以下に掲げる事業とします。

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| (1) 地域問題、国際問題に関する調査・研究事業 | (6) 地域活性化の調査・研究又は事業の実施 |
| (2) ベンチャー企業の創設に関する調査・研究事業 | (7) 国際的文化交流に関する活動 |
| (3) NPO活動事業 | (8) 各種創作活動 |
| (4) イベント計画・実施事業 | (9) その他本学の活性化に繋がると認められたもの |
| (5) ボランティア活動の計画・実施事業 | |

【実施内容】→次ページ

平成25年度 夢への架け橋助成事業 ヒヤリング・審査会結果と助成額				
順位	事業(申請受付順)	特記事項等	審査結果	申請額 〔単位:円〕
2	1 (7)国際的文化交流に関する活動 国際交流サロン「留学生との交流活性化によるキャンパスにぎわい計画part2」 【概要】先輩たちが始めた「国際交流サロンの活動」を引き継ぎ、多くの人たちに参加してもらうことで、国際交流の盛んなキャンパス、外国語が自然に飛び交うキャンパスづくりを目指す。地域の人々にも参加してもらい「真剣勝負の英語・中国語道場」を実施したい。留学生には、日本文化を理解してもらうためのツアーをいくつか企画し案内する。	語学と異文化を、普段の学生生活の中で楽しく学べ、留学生と日本人学生の交流の機会を提供する。また、地域の人たちとの交流の場を設けるという企画は、国際大学らしく評価できる。東黒牧キャンパスを拠点とする企画の他、呉羽キャンパスの学生との交流ができる企画も計画し、大学全体での活動実施をすること。	採択	156,000
2	2 (5)ボランティア活動の計画・実施事業 東日本震災復興支援ボランティア 【概要】様々な垣根を越えて、自分たちだからこそこできる『目の前の笑顔にしたい』という目的で活動を行ってきた。今後も私たち学生ができる支援を見つけ、積極的に活動を行い、様々な学びを生かして、私たちの生活を見つめ直しながら、日々の生活・活動を行っていききたい	世間はメディアを中心に震災に目を向けなくなり、東日本大震災は過去の出来事になるのではと危惧しているが学生たちの気持ちがよく伝わった。現地だけでの活動ではなく、東黒牧キャンパスの学生との交流活動、富山県内での啓発活動など実施してほしい。	採択	184,000
1	3 (5)ボランティア活動の計画・実施事業 限界集落支援事業 【概要】限界集落の活性化を目指し、その過程で自分たちがやらなければならない地域貢献を考え、自らの生き方を考える契機としたい。本年度からはへき地校である利賀小学校の児童の学習活動支援を試みる。へき地校の純真な子どもたちの学びを通して、将来の教職への道筋とする。	将来小学校教員及び教育関係の業務に就くことを希望し、地域に根差した教育の推進を目指している学生たちにとって、限界集落での活動は、過疎地域社会を理解し、将来の教職活動への基盤になるものとする。利賀小学校での児童学習支援は新しい試みであり期待したい。	採択	122,400
			合計	462,400
※ 評価の方法:各評価項目を5点～1点の5段階評価する。審査員6名により採点された合計点により順位付けを行う。				
委員会委員長・審査員:尾畑学務部長、審査員:助重准教授、小西講師、彼谷准教授、村上准教授、大平講師				

【評価と今後の課題】

募集件数が3件と少ないので、オリエンテーション及びゼミ担当教員へPR強化をする。また、報告書の取りまとめについて締切日を守らないので、早急に提出するように管理する。

(7) 広報関係に関すること

【実施計画】

68号 平成25年4月2日発行予定、1,400部 [内訳:学生課650部、後援会750部]
入学式(4月3日 水)に新入生の保護者に配布

2・3・4年生の保護者へは、後援会総会案内状に同封する

69号 平成24年9月中旬 保護者へは前期成績表の発送時に同封する

【評価と今後の課題】

以前までは、年3回発行していたが、今年度より年2回発行となり、記事内容については年間を通してより内容を検討して実施した。今年度の記事内容を踏まえて、検討していく。

平成25年度中日新聞掲載記事

【実施計画】

年間26回掲載計画

現代社会学部・子ども育成学部 各13回と掲載する

【評価と今後の課題】

平成25年度に引き続き、平成26年度も掲載する運びとなった。

(8) 学生定期健康診断に関すること

【実施目標】

学校保健安全法に基づき、学生の健康保持増進を図るため、毎年全学生を対象に定期健康診断を行う。各自の健康状態を把握し、疾患等の早期発見と適切な治療や指導を行う。

【実施内容】

毎年オリエンテーション日に合わせて、3日間実施している。

健診項目は身体計測（身長・体重・視力）、血圧、尿検査、胸部X p 撮影、内科診察。

※心電図検査：1年生全員と前年度心電図検査で有所見とされた在学生在が対象。

※抗体検査（血液検査）：子ども育成学部1年生が対象。

【評価と今後の課題】

健康診断受診率は97.9%、有所見者は138名。

有所見者に対しては校医診察、健康相談、保健指導を行い、必要に応じて医療機関受診とした。

4月の健康診断の結果、結核の学生が発見された。外国人留学生ということもあり国際交流センターと協力し、富山市保健所指導の下、当該学生の入院・内服治療措置及び学内感染拡大防止に努めた。次年度より中国人留学生については、入国後直ちに胸部直接撮影を実施することとした。

(9) 教職員定期健康診断に関する事

【実施目標】

教職員の健康の保持と増進、疾病の早期発見、予防などを目的として、毎年定期的に健康診断を行う。

【実施内容】

毎年9月学生の夏季休業中に本学内に於いて実施している。また当日受診できない教職員については健診機関にて受診できるよう数日予備日を設けている。

健診項目は身体計測（身長・体重・視力・聴力）、血圧、尿検査、胸部X p 撮影、内科診察、血液検査、胃透視、大腸検査、婦人科健診。

【評価と今後の課題】

健康診断受診率は93.0%、有所見者は47名。有所見率はかなり高い。

有所見者に対しては校医診察、健康相談、保健指導を行い、必要に応じて医療機関受診とした。

(10) 救命講習会に関する事

【実施目標】

AED設置に伴いその操作を含む救命講習会を、消防署の救命士を講師として行う。

【実施内容】

- ・東黒牧C：学務部内で実施の有無を諮り、2年に1回の開催とし今年度は見送り、来年度開催予定とした。
- ・呉羽C：キャンパス内で講習会を開催した。（教育系の学部であることから毎年実施予定）

【評価と今後の課題】

講習会に参加希望する学生が少ない。高校生時や自動車学校でもAED操作については講習をうけていることもあるが、時間が長いということも原因のひとつと考えられる。

出来れば授業の一環として全員参加してもらいたいが、それも難しい状況なので、参加学生の決定にはゼミ担当教員の協力をお願いしたいと考えている。

(11) 相談業務について

【実施目標】

- ・身体面健康の保持と増進のため、学校医が相談に応じる。
- ・精神的健康の保持と増進のため、カウンセラーが相談に応じる。

【実施内容】

＜学校医＞ 月1回来校

＜カウンセラー＞東黒牧C：毎週金曜日 11:00 から 16:00 まで

呉羽C：第1・3木曜日 12:00 から 15:00 まで

第2・4木曜日 13:00 から 17:00 まで

【評価と今後の課題】

H25年度の健康管理センター利用者は延べ871名であり、うち呉羽Cは159名であった。（2月末現在）主に健診後の有所見者の再検査や健康相談・保健指導である。生活習慣病である肥満は受診者の16.1%（BMI25.0以上）、高血圧は5.6%（140/90以上）みられた。

カウンセリングを受けた学生は延べ142名であり、うち呉羽Cは49名であった。内訳は学生生活、家庭、進路、就職、対人関係など多岐にわたっている。また医師の診断書はないが、発達障害を疑うような学生も

少数ながら見受けられる。

学校医やカウンセラーが非常勤であるため、常駐している看護師が来室する学生の相談にのることがある。
学生の状況に応じて学校医やカウンセラーに繋いでいくようにしている。

(12) 健康診断証明書の発行に関すること

【実施目標】

就職・実習・奨学金申請等に必要な健康診断証明書を、定期健康診断の結果に基づいて発行する。

【実施内容】

H25 年 4 月から子ども育成学部 4 年生の就職用健康診断証明書は、呉羽 C 健康管理センター（短大保健室）から発行している。現代社会学部全学生と、子ども育成学部 1 から 3 年生及び実習等に必要な健康診断証明書は、東黒牧 C 健康管理センターより発行している。

H26 年 4 月より子ども育成学部の学生の健康診断は呉羽 C 健康管理センター（短大保健室）より発行予定としている。

【評価と今後の課題】

H25 年度の健康診断証明書の発行件数は 391 件であり、うち子ども育成学部 4 年生就職用は 39 件であった。

健康診断証明書の証明者を学校医としているが、学長に変更していくことを考慮中。

(13) その他

平成 25 年度学生生活アンケート

【実施内容】

「平成 25 年度学生生活アンケート」の結果

後学期のオリエンテーション(9月末)に実施した「平成 25 年度学生生活アンケート」の結果を以下にとりまとめました。この結果を踏まえて、今後とも、学生の皆さんがより楽しく充実した大学生活を送れるよう、学習環境の改善に努めていきたいと考えています。

(目 次)

I. 回収率 —87%が回答—

II. 学生生活の実態について

II_1. 通学

(ア)通学時間(片道) —子どもでは 60 分以上が約 30%—

(イ)通学手段 —自家用車が 61%—

(ウ)通学での困りごと —困りごとの過半数は、「時間がかかる」—

II_2. クラブ・サークル

(エ)クラブ・サークルへの所属—少ない現代社会学部 1 年生の所属—

(オ)①週当たり活動回数—現代社会学部で 5 回以上が 33%—

(オ)②週当たり活動時間 —平均 5.6 時間—

(カ)所属していない理由 —時間の余裕がない、興味がない—

II_3. アルバイト

(キ)アルバイトの実施 —70%がしている—

(ク)①アルバイトの回数 —3, 4 回/週が最多—

(ク)② 2 アルバイトの時間 —20 時間/週超が 21%—

(ク)③アルバイトの時間帯 —深夜も多い—

II_4. 日々の勉強

(ケ)①授業時間外学習時間 —5 時間/週(平日 1 時間) 超は 11%にとどまる—

(ケ)②授業出席コマ数 —1 年生で 15、16 科目に集中—

(ケ)③登校日数 —子ども育成学部 4 年生を除き 90%以上が 5 日上登校—

(コ)読書冊数 —半年で 1, 2 冊以下が 64%—

(サ)パソコンの使用 —日常的には使っていない人が約 1/3—

III. 満足度について

- A. 学問・勉強 —子ども育成学部で学びたい授業が充実に高い満足度—
 B. 部活動・アルバイト —子ども育成での部活動への不満は若干解消—
 C. 友人関係 —新しい友人ができ満足—
 D. 教職員との関係 —教職員との関係は比較的良好—
 E. 施設 —食堂・売店には不満が多い—
 IV. 学生生活全般の満足度 —概ね「どちらでもない」に留まる満足度—
 V. 後輩等への大学への勧め —概ね、「どちらでもない」だが、子ども育成学部が若干高い

【評価と今後の課題】

データ分析をして、今後このデータを利用して学生生活の向上を図るため、学友会と相談し、平成26年度のオリエンテーションで、クラブ・サークルに加入する学生を増やすため、学友会・クラブ会が中心となり、新入生に呼びかけることとなった。また、平成25年度には、埴土における満足度を高めるのに、アンケートを実施し、反映させる努力を業者と話し合った。今後、学友会等と話し合い、学生満足度を高めていく。

学長賞等表彰について

【実施計画】

この一年間、本学の学生として著しく表彰に価する業績のあった者あるいは、文化、スポーツ、諸活動を通じ、特に優れた業績を修めた団体又は個人に対し、富山国際大学学則第38条及び同学生表彰要項に基づき表彰したいので、別紙様式により候補者の推薦をされるよう、関係者をお願いし実施する。

平成26年1月6日 関係各位に推薦依頼

平成26年1月17日 締め切り

平成26年1月26日 全学学務委員会

平成26年2月12日 両教授会

平成26年2月19日 運営会議

【実施内容】

下記の学生表彰候補者が提出され、平成26年1月の学務委員会で審議し、2月の両教授会及び運営会議で審議し承認された。

学生表彰候補者一覧表				
NO	表彰規程	推薦賞名	個人・団体	所 属
1	2(1)ア	学長賞	団体	女子ハンドボール部
2	2(1)ア	学長賞	団体	ボート部(男子)
3	2(1)ア	学長賞	団体	ボート部(女子)
4	3(1)ウ	学長功労賞	団体	限界集落支援チーム
5	3(1)イ	学長功労賞	団体	ダンスサークル
6	3(1)ウ	学長功労賞	個人	

※富山国際大学学生表彰規程細則に基づいて、行った。

【評価と今後の課題】

表彰は、3月の卒業式場で表彰されるが、6番の学生表彰候補者は学長功労賞で推薦提出されてきたが、学務委員会で感謝状に変更し了承され、表彰について卒業式が終了後、現代社会学部にて表彰されることとなった、今後は、卒業式で表彰すべきか基準を詳細にする必要性が出てきた。

(2) キャリア支援センター

(1) 庶務業務に関すること

【実施計画】

各種調査、

文部科学省・富山県・民間企業等より、大学の就職関係調査依頼に伴い、提出する。

卒業生進路状況作成

5月開催予定の後援会理事会に配布するので、その頃までに作成する。

800部作成

高校訪問資料作成(3回)

出身高校別に、就職情報を母校に出向き、説明を行う基礎データ作成する。

「採用のための大学案内」パンフレット作成

11月開催予定の「企業・事業所・大学講演会」に参加企業に配布するので、その頃までに作成する。

3,000部作成

富山県財団法人ひとづくり財団助成、

私立大学振興事業で、学生確保推進支援事業4年制の私立大学が優秀な学生を確保するために行う事業の助成を得る。

インターンシップ報告書作成、

11月開催予定の「企業・事業所・大学講演会」に参加企業に配布するので、その頃までに作成する。

150ページ 500冊作成

内定礼状作成

平成25年10月1日以降、内定した企業(確実に内定した企業へ行くことを確認した企業)に対して、随時令状を送付する。

年賀状作成、

平成25年度にインターンシップ協力企業・キャリア教育協力企業・「企業・事業所・大学講演会」の講師・参加企業、「学内合同企業説明会」参加企業に年賀状送付

540枚発送

運営会議・教授会資料作成業務、

毎月1回開催される運営会議・教授会資料作成業務を実施。

【実施内容】

各種調査、

・卒業予定者の就職決定状況【富山県労働雇用課】 毎月、月末の内定状況をメールにて10日前後に報告

・新規大学等卒業者の求職・就職内定状況【富山公共職業安定所】

・学校基本調査(5/1付調査) 【文部科学省】卒業後の状況調査票(学部毎)

2-1(状況別卒業者数、入学年度別卒業者数、男女別)2-2(職業別、産業別、男女別)

・学校法人基礎調査(5/1付調査) 【日本私立学校振興】

(進路別卒業者数、産業別就職者数、男女別)

・就職指導に関するアンケート【HR総合調査研究所】

・就職担当調査・学事スケジュール調査【株式会社ディスコ】

・就職情報登録に関するアンケート【株式会社ダイヤモンド・ビックアンドリード】

・就職情報のお届けに関するアンケート【株式会社ジェイ・ブロード】

・就職情報サービス登録取扱いアンケート【株式会社アクセスヒューマネクスト】

・キャリア、就職支援への取組み調査、外国人留学生人材活用促進事業【株式会社マイナビ】

・2012年度卒業者の就職状況調査【旺文社】

・2015年卒就職情報提供に関するアンケート【株式会社文化放送キャリアパートナーズ】

・大学生の就職活動解禁日繰り下げに関する調査【大学通信】

・就職担当部署各種アンケート【株式会社栄美通信】

・学部別就職状況調査、就職者数上位50社【大学通信】

・学部別卒業後の進路【朝日新聞】

・学部別就職状況【旺文社】

卒業生進路状況作成

進路決定届の提出データを基に、4月30日付け進路状況を作成し、データ作成（学部別進路状況、職種別就職状況、業種別就職状況、所在地別就職状況、就職先一覧）して、作成。

配布先

- ・企業（企業・事業所・大学講演会）・入試広報課（高校訪問、高校教員説明会等）
- ・総務課（後援会理事会・総会、学園理事会等）

高校訪問資料作成（3回）

入試広報課より卒業生就職先データ作成依頼有り、過去2,3年間のデータを出身校別に作成。

「採用のための大学案内」パンフレット作成

「企業・事業所・大学講演会」（11月開催）の企業（人事担当者）に渡すため、それまでにパンフレットを納期させる。内容については、次年度の学生PR用として作成。

- ・キャリア支援センター長・次長・センター員で内容確認。
- ・業者選択をして見積・スケジュール計画依頼
- ・業者決定後、内容の打ち合わせをして骨格作成。
- ・キャリア支援センター運営会議で内容審議
- ・原稿依頼、データ作成・写真選択

配布先 ・企業（企業・事業所・大学講演会及び求人票に同封）

- ・入試広報課（高校訪問、高校教員説明会）
- ・総務課（後援会理事会・総会、役員会）

富山県財団法人ひとづくり財団助成、

- ・次年度の要望調書（就職推進事業）作成・提出 ①県の様式に従って書類を作成 ※交付条件有
- ・交付申請書作成・提出 ①県の様式に従って書類を作成 ②学長までの伺書を作成し、承認後提出
※補助対象経費の支出は、交付決定のあった日以降からの支出になるので注意
- ・事業実績報告書作成・提出 ①申請事業が完了次第作成 ②県の様式に従って書類を作成（請求書添付）

③学長までの伺書を作成し、承認後提出

インターンシップ報告書作成、

キャリア支援センター運営会議で役割分担を決定後インターンシップ参加学生、受入企業よりデータを集めて、実施報告書を作成（・担当教員に業務依頼・挨拶文・インターンシップの概要・今年度を振り返って）

上記以外のデータは事務方で作成

- ・学生の文章は誤字脱字が多く確認が必要。担当ゼミ教員には確認してもらっているが、事務方での修正が必要。
- ・データ作成・修正及び結合作成

（はじめの挨拶、インターンシップ概要、目次、研修経緯一覧、受入先一覧、研修レポート、学生の成果、受入先アンケート結果、今年度の総括及び来年度に向けて、日報要約、インターンシップ実施要領）

配布先 ・教職員

- ・学生（学内発表会（1,3年）、インターンシップ受講の仕方）
- ・企業（受入先企業）
- ・総務課（後援会理事会・総会等）

内定礼状作成

平成25年10月1日以降、内定した企業（確実に内定した企業へ行くことを確認した企業）に対して、随時令状を送付。

年賀状作成、

平成25年度にインターンシップ協力企業・キャリア教育協力企業・「企業・事業所・大学講演会」の講師・参加企業、「学内合同企業説明会」参加企業に年賀状送付

運営会議・教授会資料作成業務。

審議事項、報告事項に提出する資料をセンター長、課長に確認し、2日前にデータを総務課・教務課に提出する。

※内定状況資料は、最新の内定率に変更して提出

【評価と今後の課題】

期日厳守の作業が多く、作業工程及び役割分担の見直しが必要となっている。特に各種調査については、民間企業における調査が多く、内容は似ているが調査に時間が取られて、大学の業務に障害が起きないように、提出企業の見直しを図る。

(2) キャリア教育に関すること

【実施計画】

現代社会学部におけるキャリア・デザイン講座(1年必修)、キャリア教育(2年)、インターンシップ(3年選択)、キャリア支援講座(3年必修)、就職試験対策講座、インターネットナビウエア(SPI)の授業運営に関わる業務。尚、子ども育成学部では、キャリア入門講座(1年生)、キャリア支援講座Ⅰ(2年生)、キャリア支援講座Ⅱ(3年生)、キャリア支援講座Ⅲ(4年生)、実習、インターンシップ等を独自に実施している。

キャリア支援センター運営会議にて、1月から3月にかけて協議し決定する。

【評価と今後の課題】

キャリア支援講座・子ども育成学部キャリア支援については、学生のアンケートを参考に内容を変えている。キャリア・デザイン講座は、担当教員が毎年工夫(2年前から少人数・2クラスに分けて実施)をして内容変更しながら組み立てている。

(3) データ管理に関すること

【実施計画】

卒業生就職先、在学生進路状況、企業データの管理。

尚、子ども育成学部でも独自のデータ管理を行っている。

卒業生就職先

企業に求人票を発送する際に、その企業に卒業生が在籍しているか居ないか確認するために、在籍者調査を実施(1月実施)

在学生進路状況

7月にキャリア支援講座の授業時に配布し実施

企業データの管理

求人票発送及び企業データ修正、求人票に日付印を捺印(通年)

【実施内容】

卒業生データ管理

- ・個々の就職データ管理

企業に求人票を発送する際に、その企業に卒業生が在籍しているか居ないか確認するために、在籍者調査を実施(1月実施)

- ・企業より回答を得たデータを元に卒業生データの修正・加筆
- ・卒業生アンケートデータも卒業生データに修正・加筆する(12月実施)
- ・企業訪問で得た情報も反映させる

在学生データ管理

- ・進路登録カード

①7月にキャリア支援講座の授業時に配布

②夏休み期間中に自己分析と企業研究をさせる

③第1回模擬面接時に回収

※留学生で進学、帰国する学生は後期授業開始前までに回収)

※2年前までは10分間の個別面談をして、学生の特徴を把握し、要注意学生をリストアップしていた。現在は模擬面接の様子から学生の特徴を把握する。

※このカードを参考に、学生の情報と希望企業を照らし合わせて、求人票を紹介する。

④個人情報記載

- ・相談内容、気が付いた点等
 - ・証明書発行企業名
 - ・3年次までの単位修得数
 - ・内定先、辞退先企業名

※カードの裏面は、個人情報となっているので取扱注意

⑤進路登録カードと一緒に、学生の履歴書、模擬面、接評価表、グループディスカッション、SPI
答案用紙も個々に綴る

内定後の手続き

- ・進路内定（決定・辞退）届
 - ①進路が決定後用紙に記載
 - ②内定通知書のコピーを撮り一緒に綴る
 - ③産業分類、職業分類は本人に確認する
 - ④今後就活を続行するかの有無をきちんと把握する
 - ⑤この用紙を基に内定状況データに入力する
- ・就職状況報告書
 - ①進路が決定後用紙に記載
 - ②後輩学生のために、試験日程・適正検査・筆記試験内容・作文、小論文テーマ、面接内容を詳しく記入してもらう
 - ③年度毎にファイルを作成し、次年度学生の参考資料として閲覧する
 - ④証明書発行時には、このファイルの先輩情報を提供する

進路状況調査依頼

- ・進路状況における調査依頼
 - ①4年ゼミ担当教員に対して調査を年2回実施
 - ②就職先内定データを基にゼミ教員ごとに作成
 - ③依頼文作成
 - ④依頼文と進路状況調査票を配布
 - ⑤調査票回収後に就職先内定状況データに反映させる

企業データ管理

求人票受付

- ・求人票発送及び企業データ修正
 - ①求人票発送先データの作成(学部ごとに作成)
 - ②会社名、所在地、統合、倒産等の確認をホームページ等で確認する)
 - ③依頼文の作成(学部ごとに作成)
 - ④求人票用紙の手配(学部ごとに作成)
 - ⑤起案
 - ⑥タックシール、封筒の準備
 - ⑦求人票発送（採用のための大学案内、在職者調査も同封）
 - ⑧郵便が届かなかった企業のデータ修正を行う
 - ⑨卒業生データの企業名も修正をかける
- ・求人票に日付印を捺印

※企業人事担当者が、大学に来て求人票を提出された場合は、企業の求めている学生像を聞き出す。
- ・県内求人・県外求人・共通県内求人・共通県外求人 に分けてナンバーリングする
- ・求人票データの入力(ホームページより求人票データが確認でき、地域、業種、職種検索等も可能)
- ・求人票一覧の作成
- ・求人一覧表を学部別にホームページにアップする
- ・掲示板に求人票の掲示
- ・企業ファイルに求人票を綴る（新規の場合はファイルを作成）
- ・会社説明会及び学外ガイダンスのポスター、チラシ等も随時掲示する

※ 求人件数及び求人人数 3月31日現在の求人件数 県内 514 件 県外 347 件
 求人数 県内 2,223 人 県外 21,662 人

【評価と今後の課題】

求人票のデータ管理システムは複雑であり、業務的にロスが多いので、単純化を図る。また、大学ホームページより、求人票を閲覧できるが、見ている学生が少ない。大学に送付(来校)される求人は大切にして、学生にPRして、情報の早急化を図る。

(4) キャリア支援センター行事に関すること

【実施計画】

「企業・事業所・大学講演会」の講師関連、発送先リスト作成、案内発送、会場準備、報告書作成等

運営に関する業務。

「企業・事業所・大学講演会」

「平成25年度 富山国際大学 企業・事業所・大学講演会」

日 時 : 平成25年11月28日(木) 15:30 ~ 19:00

場 所 : ホテルグランテラス富山

(住所: 富山市桜橋通り2番28号 TEL: 076-431-2211)

受 付 : 15:00から (3階 薫風の間)

【大学説明】(3階 薫風の間) 15:30 ~ 15:50

開会の辞

開会挨拶 学 長

就職状況説明 キャリア支援センター長

【講演】(3階 薫風の間) 16:00~17:30 (質疑応答含む)

演 題 「今後の日本経済と人材育成」

講 師 株式会社日本総合研究所 調査部 主席研究員 藻 谷 浩 介 氏

【情報交換会】(4階 瑞雲の間) 17:40~19:00

開会挨拶兼乾杯 学 長

ご歓談・名刺交換

閉会挨拶 キャリア支援センター長

以上

【実施内容】

	平成25年度	平成24年度
参加企業数	58	69
講演会参加人数	68	84
情報交換会参加人数	60	52

【評価と今後の課題】

懇親会については、平成24年度より座席指定をして、教員と人事担当者が情報交換をしやすい環境を作ることに
より、以前より内容が密になり、参加者も増えた。今後は、アンケートを分析して、次回の改善に繋げる。

【実施計画】

「学内合同企業説明会」の発送先リスト作成、案内発送、会場準備、参加学生への教育・指導、アンケート集計等
運営に関する業務。

1. 目 的 : 学生が「業界」や「業種」について研究し、企業の採用計画・採用試験日程などを採用担当か
ら直接情報収集することで、以降の就職活動を円滑に行えるようにすることを目的とする。

2. 日 時 : 平成26年1月29日(水) 14:30 ~ 17:00 (企業受付開始 13:45~)

3. 会 場 : 富山国際大学 東黒牧キャンパス 厚生棟

4. 方 式 : ブース形式による説明(1回あたり30分間の説明を5ローテーション実施)

5. 対象者 : 平成27年3月卒業予定者170名の内、企業への就職希望者約90名
(留学生及び子ども育成学部一部含む)

6. 内 容 : ① 開会挨拶(中島学長)

② 各ブースにて事業内容や採用計画についての説明を受ける(30分×5回)

③ 企業と教職員との情報交換(随時)

④ アンケート記入

⑤ 閉会挨拶(村瀬キャリア支援センター長)

7. 学生への事前説明会

日 時 : 平成25年12月18日(水) 13:00~14:30

平成26年 1月 8日(水) 13:00~14:25

場 所 : 大講義棟I

内 容 : 企業研究、事前教育・諸注意、マナー指導等

【実施内容】

参加者企業 93社
 参加学生 77人参加 379社訪問 平均4.9社
 ※ 1人5社企業訪問をすることを指導

【評価と今後の課題】

毎年実施している事業で、企業側からのアンケートを参考に少しずつ改善を図っている。平成26年度については、開催時期を1月から3月に変更し、学生が企業を訪問する回数を5回から6回に変更し、1社30分の所を25分に変更する事を検討して実施する。

(5) 学生相談に関すること**【実施計画】**

カウンセラー・支援委員の来校日の調整及び保護者相談会に関する業務。

学生個々には、求人票・ガイダンス情報の案内、送付状やお礼状の書き方指導等を行い、「進路登録カード」には相談内容や受験先・証明書発行先など就職活動状況を記載する。

尚、子ども育成学部でも独自の学生相談業務を行っている。

- ・学生の予約(予約表で管理する)

週に2間(原則水曜日・金曜日の午後)来てもらう学生1人に対して1時間相談。

内容については、進路登録カードデータに記載し個人データとして共有する。最近、心の病の学生が増えてきているので、その様な学生は、相談回数が増える傾向にある。

予約の際は、カウンセラーと相談して、なるべく多くの学生が受けられるように配慮し相談受付をする。

【履歴書・エントリーシート・模擬面接指導】

- ・富山県職業安定所から、週1日相談員が来て、企業情報や就職相談に来校

- ・コーディネータとして、元民間企業人事担当者2人来ていただき、相談(企業情報)・指導(履歴書・エントリーシート・模擬面接指導)をする。

内容によっては、ゼミ担当、キャリアカウンセラーと情報交換しながら実施する。

- ・事務職員は、学生がカウンターに来たら、相談(企業情報)・指導(履歴書・エントリーシート・模擬面接指導)をする。内容によっては、ゼミ担当、キャリアカウンセラーと情報交換しながら実施する。

3・4年次生の学生を対象に、就職に苦勞をする学生の保護者をリストアップして、金曜日、土曜日、日曜日を設定して、保護者相談会を実施。センター長と実施時期を相談して、臨機応変に実施する。(8月)

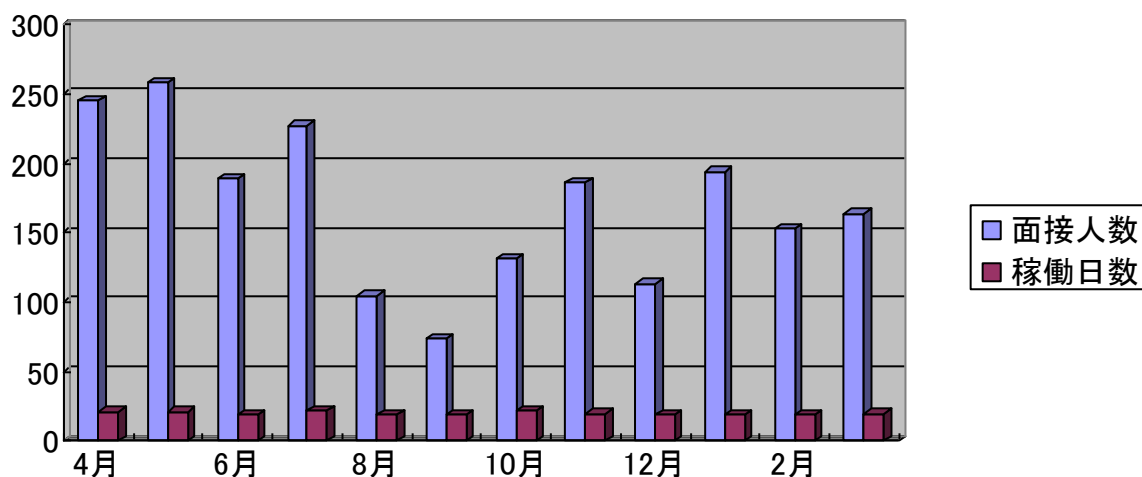
- ・該当保護者に開催通知発送 → 相談時間を調整 → 情報収集(専門学校・求人票等)

- ・総務課で、相談内容のアンケートを実施し、就職相談要望の保護者と面談する。(6月)

- ・学生課で、相談内容のアンケートを実施し、就職相談要望の保護者と面談する。(10月)

【実施内容】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
面接人数	245	258	189	227	105	74	131	186	113	194	153	164	2039
稼働日数	21	21	19	22	19	19	22	20	19	19	19	20	240



【評価と今後の課題】

学生が予約しても、無断で予約日に来ないケース数例あり、学生に連絡をするが、忘れていたとか、急にガイダンスが入った等の理由が返ってくるが、学生に対して社会的マナーに反しているのを、厳重に注意をしている。

また、学生の性格を見て、数人の面接指導を受けた方が良いと感じた学生には、その様に指導をしている。

(6) 企業訪問・新規開拓に関すること

【実施計画】

就職先内定お礼訪問、新規開拓企業訪問を行う。

- ・就職状況報告書を参考に、内定した企業にお礼に行く。次年度の採用計画も聞いてくる。
- ・新規開拓・OBOG 内定企業
進路登録カードの希望企業を参考に、情報収集に行く。
- ・コーディネータ(民間企業人事経験者)企業開拓。
- ・緊急対応企業(内定辞退等)
基本的には、学生に謝りに行かせる。大学からも謝りに行く。

【実施内容】

・2013年度(第5回)平成25年9月24(火)開催のキャリア支援センター運営会議にて、ゼミ別にゼミ担当者が、内定先お礼訪問する事を確認して、教授会で依頼し実施

・新規開拓等について

コーディネータ(民間企業人事経験者)が中心に企業開拓実施

大手企業の支店での新規採用開拓を実施し、内定まで進めた。

学生の希望を聞いて、富山県内の中小企業人事担当者をお願いして、内定まで進めた。

OBOG 内定企業

卒業生で、社会経験のある人材のお願いが4社から依頼あり、2社紹介して内定した。

※卒業生が活躍しており、大学を信頼して依頼に来られた。

・緊急対応企業(内定辞退等)

- ① 内々定の承諾書を企業に未提出で、電話で人事担当者にお断りの連絡をしたとのことで、学生と人事担当者の解釈が違い、企業よりクレームの電話があり、社長及び人事担当者にお詫びに行った。
- ② ここ数年内定をしている企業で、内々定を頂いて断った事により、人事担当者より電話による内容説明があり、お詫びに行った。

ただし、その後、事務関係で早急に人材が必要となり、卒業生が必要との事で紹介し、内定した経緯がある。

※基本的に、内々定を辞退するときは、本人が直接企業に出向きお詫びする事を指導している。

【評価と今後の課題】

企業にお礼等をしに面談すると、企業より信頼が得ている所もあるが、これは、現役で働いている卒業生の評判が良いからである。調査により卒業生が入社して、何らかの原因で退職しているケースがある。一人も辞めていない会社はほとんどないのが現状であり、現今後、キャリア教育の中で検討し、企業選択の大切さを教えていく。転勤

を嫌がる学生が多く、選択企業の幅を狭めているので、これに対してもテコ入れが必要である。

(7) インターンシップに関すること

【実施内容】

受入先機関 31 企業・団体・機関

アイシン新和株式会社 朝日印刷株式会社 アルビス株式会社 株式会社石金精機 射水市中央図書館
株式会社エコロの森 株式会社OSCAR 株式会社オレンジマート 株式会社北日本新聞社 有限会社青青編集
ゼビオ株式会社 スーパースポーツゼビオ 富山蜷川店 立山町役場(立山町元気交流ステーション内立山図書
館) 株式会社チューリップテレビ 公益財団法人砺波市花と緑の財団 (チューリップ四季彩館) 公益財団法人
とやま環境財団 富山県庁(富山県呉羽青少年自然の家) 藤堂工業株式会社 富山市役所(富山市八尾総合行政
センター) 富山商工会議所 富山スガキ株式会社 株式会社富山第一銀行 国立大学法人富山大学
(総務部広報グループ) 中田図書販売株式会社 株式会社日産サティオ富山 日本海シーライン開発株式会社
ホテルグランミラージュ ネットトヨタ富山株式会社 野村證券株式会社 富山支店 株式会社PCO 株式会社
北陸銀行 株式会社まちづくりとやま 名鉄観光サービス株式会社 富山支店
研修参加人数 36 名

※星野リゾートインターンシップ冬2月から3月まで2か月近くインターンシップ実施 4 名が参加

※富山信用金庫 3 月に 5 名が参加

【評価と今後の課題】

平成 26 年度より、インターンシップの該当年次を 1 年次(後期からの参加が望ましい)～4 年次となり、研修生
が一人でも多く参加し、就業意識を高めて欲しい。また、平成 27 年度就職活動の時期が夏季と重なることによ
り、インターンシップの受け入れ企業との関係を模索しなければならない。早急に計画を立てて対応していく。

(8) 大学コンソーシアム富山に関すること

【実施計画】

平成 25 年度大学コンソーシアム富山合同企業訪問事業計画

1. 対象学生

事業主旨に基づき原則として低学年の学生を対象とする。

但し、希望があれば全学生を対象とする (大学院生、専攻科生含む)

2. 内 容:

・コースは 10 コース

・募集は 各コース 20 名×10=200 名

・ 従来通り 3Step とするが、マナー講座は除く

①コース別ミーティング 8 月下旬

8 月 20 日(火)～ 8 月 23 日(金)の 1 日

②企業訪問 9 月 5 日(木)

③成果発表会 9 月 12 日(木)～ 9 月 18 日(水)の 1 日

(土日は除く)

3. 学生の募集

①募集方法 ポスター、パンフレット(A4 サイズ 1 枚)、H/P

【実施計画】 1 事業概要

(1)開催日時 平成 25 年 8 月 22 日(木)～平成 25 年 9 月 18 日(水)

(2)会 場 富山国際大学 東黒黒牧キャンパス

(3)対 象 者(参加者又は受講者)

147 名(学生 128 名、教員 11 名、職員 8 名、企業訪問 9 月 5 日(木))

(4)内 容

・コースは 10 コース 1 コース 2 企業訪問

・募集は 各コース 20 名×10 コース=200 名 学生参加者 128 名

①コース別ミーティング 8 月 22 日(木) 参加者 108 名

②企業訪問 9 月 5 日(木) 参加者 128 名

【評価と今後の課題】

今年度はインターンシップ等と時期的に重なった事もあり、参加数が少なかった。ミーティング、訪問研修、成果発表の3ステップ参加は必須であり、特に成果発表の参加は非常に少なかった。3ステップ参加を義務化する。訪問研修の企業選定については、選定企業について、今年は大手企業ばかりであったが、中小も入れることも視野に入れて検討及び学生への通達及び連絡については、工夫する必要がある、来年度に向けての課題である。

(9) キャリア支援センター運営会議関連に関すること

前述の委員会事項に記載済み。

(3) 国際交流センター

(1) 海外機関との学術交流に関すること

【実施計画】

海外提携校を拡大し、学生交流・学術交流などを通じて活発な国際交流を行う。

【実施内容】

*平成25年度 新たに協定を結んだ学校

中国 南通大学(学術交流及び学生交換) H25.12.12.31 締結

徳島徳橋日本語学校(外国人私費留学生募集) H25.9.21 締結

南通江戸外国語訓練養成学校(同上) H25.9.23 締結

*協定更新

韓国 大邱大学校経商大学(学術交流及び学生交換) H25.9.11 更新

オーストラリア ラ・トロブ大学(学術交流及び学生交換) H25.12.3 更新

【評価と今後の課題】

大学1校、日本語学校2校と新たな協定を結び、既協定校2校と延長更新を規定した協定で更新した。

中国との協定が多く、日本人学生の留学先としての多異国(英語圏)の大学との交流を開拓して行きたい。

(2) 外国人留学生に関すること

【実施計画】

外国人留学生の学部生・交換留学生の在留資格取得、受入準備、空港送迎、生活支援・指導、国際交流事業の参加、留学生研修・交流事業と多岐に亘る。

【実施内容】

*H25年度後期受入留学生(交換留学生4名、研究生2名)の入学手続きを7月に実施

*H26年度前期受入留学生(学部生11名、交換留学生9名、研究生1名)の入学手続きを12月に実施

*在留期間更新申請手続き(学部生24名、研究生1名)を5月に実施

*奨学金(富山県国際交流奨学金5名、学習奨励費4名、朝日国際財団5名)申請手続きを6月に実施

*受入学生数 33名

・学部生 18名(天津社会科学院16名、大連海洋大学編入学2名)

・交換留学生15名(大連海洋大学5名、ウラジオストク経済サービス大学2名+2名、EMBA 1名+1名、中国海洋大学3名、PSU 1名)

*毎月2回、水曜午後に新入生オリエンテーションを実施(銭輝支援員)

*下記イベントを実施

外国人留学生富山県内研修(富山市内お花見) 4月6日(土) 27名

外国人留学生富山県内研修(チューリップフェア会場 五箇山) 4月27日(土) 27名

外国人留学生富山県内研修(中部山岳国立公園) 5月11日(土) 23名

国際交流サロン(田植え体験) 5月29日(水) 3名

国際交流サロン(百万石まつり参加) 6月1日(土)~2日(日) 8名

外国人留学生と中国語を学ぶ社会人との異文化交流会 6月19日(水) 30名

外国人留学生教養演習(書道体験) 7月26日(金) 4名

外国人留学生教養演習(佐々成政戦国時代祭り参加) 7月28日(日) 5名

外国人留学生教養演習(巻き寿司体験)	8月7日(水)	28名
国際交流サロン(日本人学生との富士登山)	8月18日(日)～20日(火)	20名
外国人留学生富山県内研修(風の盆前夜祭)	8月22日(水)	14名
外国人留学生富山県内研修(黒部峡谷紅葉狩り)	11月4日(月)	22名
外国人留学生教養演習(書道体験)	11月7日(木)	12名
富山市国際交流フェスティバル参加(留学体験発表)	11月10日(日)	17名
外国人留学生日本文化体験(華道体験)	11月13日(水)	26名
富山国際大学留学生総会・懇親会	12月20日(金)	53名
外国人留学生富山県内研修(立山山麓雪の祭典参加)	2月15日(土)	7名

【評価と今後の課題】

国際交流センターで最も多く費やされる業務である。留学生の受入については協定校との連絡から始まり学生の情報収集、ビザ取得のための在留資格申請書類の審査、入国管理局への申請、許可証の送付、受入アパートの準備、入国後の役所・銀行・携帯電話等の手続き、日本で生活習慣のオリエンテーション、日常生活の相談、留学生への連絡、奨学金申請・支給、緊急時の支援等を行った。協定校からは面倒見の良い大学として評判を得ているが、限らない援助は、留学生にとって日本社会で生活するための支援にならないと思っはいるが、自立できる方策を考慮している。

(3) 本学学生の海外留学に関すること

【実施計画】

教員が本学独自の海外留学・研修プログラムの概要を作成し、希望学生への説明会を4月に実施する。留学希望学生とは協定校と受入協議を行い、派遣校の情報や留学中の諸注意、留学許可を受けるための書類作成等、海外留学のための事務処理全般を実施。異文化研修や国際交流実習についても担当教員による事前研修を経て実施、いずれも海外旅行危機管理についての事務処理を行う。

【実施内容】

*派遣学生数 38名

インターナショナルプログラムズ(長期)

梶 俊介 ポートランド州立大学(米国) 2013.9.20～2014.3.27 6ヶ月

吉田圭佑 ポートランド州立大学(米国) 2013.9.20～2014.6.20 1年間

堀江輝一 大連海洋大学(中国) 2013.3.1～2013.2.15 1年間

竹内汰成 大連海洋大学(中国) 2013.8.21～2014.8.20 1年間

柳澤佑今 大連海洋大学(中国) 2013.8.27～2014.8.26 1年間

インターナショナルプログラムズ(短期)

垣内和樹 サザンクロス大学(豪州) 2013.8.24～2013.9.20 5週間

異文化研修(中国) 天津・青島・上海 2013.8.27～2013.9.3 8日間

現代社会学部 7名

異文化研修(韓国) ソウル・大邱 2013.9.8～2013.9.15 8日間

現代社会学部 3名

異文化研修(仏国) パリ・カンペール 2014.2.24～2014.3.7 12日間

現代社会学部 4名 子ども育成学部 8名

国際交流実習(泰国) チェンマイ 2014.3.1～3.15 15日間

現代社会学部 10名

【評価と今後の課題】

例年より留学する学生が多かった。留学先の選定から協定校への連絡、担当教員と連携、派遣前の海外旅行危機管理契約、派遣中の連絡、留学終了後の届出書の提出、留学奨学金の手続き等を行った。派遣学生の不安解消のため、派遣先とは緊密な情報交換で受入条件、生活条件等の情報を収集し学生に事前周知したい。

(4) その他の国際交流に関すること

国際交流フォーラムの実施

名称 学校法人富山国際学園創立50周年記念

富山国際大学国際交流フォーラム 「姜尚中氏と語ろう国際交流！」

開催日時 平成 25 年 11 月 17 日(日) 13:00～16:30

開催場所 富山市東黒牧 65-1 富山国際大学 大講義棟 I

参加人数 一般 164 人 学生 158 人 教職員 56 人 合計 378 人

開催概要

【第 1 部】 基調講演 「私が生きた日本とアジア」

姜 尚中 聖学院大学全学教授

【第 2 部】 学生の発表

北條怜左 現代社会学部 3 年 「一年間の韓国留学で得たこと」

下島 斎 現代社会学部 4 年 「帰国子女の私から見た日本と日本人の不思議」

李 麗金 現代社会学部 4 年 「日本留学の感想」

【第 3 部】 パネルディスカッション 「アジア諸国との共存共生に向けた民間交流」

パネリスト 姜 尚中 聖学院大学全学教授

宮田妙子 NGO ダイバーシティとやま代表

鈴木康雄 富山国際大学客員教授（元読売新聞外報部長）

コーディネーター 才田春夫 富山国際大学教授 国際交流センター長

総司会 廣川奈美子

* 富山県留学生等交流推進協議会の運営会議、総会への出席。運営委員を選出し年 2 回の運営会議が開催される。

* CiC に富山国際学園サテライトがある関係で、富山市国際交流フェスティバルに参加し、外国人留学生の留学体験と日本人の留学報告を発表するイベントを行っている。開催前には 4 回の実行委員会が開催される。

* 留学生総合住宅補償業務は、大学が機関保証人となり留学生は民間アパートの賃貸契約している。卒業で退去する際は保証人も責務があるため、仲介不動産屋と連絡を取りながら引き渡しを行っている。過去に無断退去があり 3 件の保険金支払いが発生している。

* 日本留学試験中部(北陸)ブロック会議に所属し、北陸地区の日本留学試験会場担当校決めているが 5 年以上先まで担当校が決まっているため、近年はメールによる審議となっている。

平成 25 年度の学務部門の事業は学長のリーダーシップの下、教育内容の充実と確かな学びの保障に力点を置きその手法を探ってきたが、さらに、既存のシステムを有効に活用して入学データ・学業成績・就職データ等の一元化と事務部門と教員との情報共有化を急ぐことが必要である。また、学生生活のための施設整備の充実は現状の予算では厳しい面もあるが、学園や大学の将来ビジョンを踏まえて計画的に整備していくことが必要となっている。

3. 基本情報

平成25年度富山国際大学在学者数

H26.3.31現在※

				男女別数		県内外別数		男女県内外別数			
	学部	学科	総数	男	女	県内	県外	男県内	女県内	男県外	女県外
	現代社会	現代社会	99	63	36	62	37	40	22	23	14
1 年生	休学		2	1	1	2		1	1		
	子ども育成	子ども育成	85	17	68	80	5	14	66	3	2
	休学		0								
	合 計		184	80	104	142	42	54	88	26	16
	休学		2	1	1	2	0	1	1	0	0

				男女別数		県内外別数		男女県内外別数			
	学部	学科	総数	男	女	県内	県外	男県内	女県内	男県外	女県外
	現代社会	現代社会	101	69	32	81	20	54	27	15	5
2 年生	休学		1	1			1			1	
	子ども育成	子ども育成	77	22	55	69	8	21	48	1	7
	休学		1	1		1		1			
	合 計		178	91	87	150	28	75	75	16	12
	休学		2	2	0	1	1	1	0	1	0

				男女別数		県内外別数		男女県内外別数			
	学部	学科	総数	男	女	県内	県外	男県内	女県内	男県外	女県外
	現代社会	現代社会	96	69	27	68	28	49	19	20	8
3 年生	休学		2	1	1	1	1	1			1
	子ども育成	子ども育成	77	21	56	69	8	18	51	3	5
	休学		0								
	合 計		173	90	83	137	36	67	70	23	13
	休学		2	1	1	1	1	1	0	0	1

				男女別数		県内外別数		男女県内外別数			
	学部	学科	総数	男	女	県内	県外	男県内	女県内	男県外	女県外
	現代社会	現代社会	133	76	57	100	33	60	40	16	17
4 年生	休学		2	2		2		2			
	子ども育成	子ども育成	78	16	62	72	6	13	59	3	3
	休学		1		1	1			1		
	合 計		211	92	119	172	39	73	99	19	20
	休学		3	2	1	3	0	2	1	0	0

				男女別数		県内外別数		男女県内外別数			
	学部	学科	総数	男	女	県内	県外	男県内	女県内	男県外	女県外
	現代社会	現代社会	429	277	152	311	118	203	108	74	44
全学年	休学		7	5	2	5	2	4	1	1	1
	子ども育成	子ども育成	317	76	241	290	27	66	224	10	17
	休学		2	1	1	2	0	1	1	0	0
	合 計		746	353	393	601	145	269	332	84	61
	休学		9	6	3	7	2	5	2	1	1

※表内人数には交換留学生を含まない。

※合計には休学者数を含む

※3月31日付け退学者は在学者に含む。

・平成25年度 退学者数等（平成26年3月31日現在）

《現代社会学部》

	1 年 (25 年度)	2 年 (24 年度)	3 年 (23 年度)	4 年 (22 年度)	計
入学者数	98	105	104	135	442
4 月現在 在籍者	94	99	91	121	405
留年者数	0	1	0	0	1
小計	94	100	91	121	406
退学者	4	5	13	14	36
退学率	4.1%	4.8%	12.5%	10.4%	8.1%

《子ども育成学部》

	1 年 (25 年度)	2 年 (24 年度)	3 年 (23 年度)	4 年 (22 年度)	計
入学者数	85	78	82	76	321
4 月現在 在籍者	84	77	76	74	311
留年者数	0	0	0	0	0
小計	84	77	76	74	311
退学者	1	1	6	2	10
退学率	1.2%	1.3%	7.3%	2.6%	3.1%

II. 委員会・部会（評価・課題）

1. 学務委員会

（1）学務委員会

【目標】

富山国際大学学務委員会規程第2条に規定する審議内容について、平成25年度では次の事項を積極的に推進する。

- ① 教育課程及び授業の充実のためのポリシー策定、授業方法の改善、シラバスの一部変更などの改善について
- ② FD（ファカルティ・デベロップメント）の実施
- ③ 教職課程等の変更に伴う事業推進について
- ④ 現行奨学制度による奨学生の充実について
- ⑤ 授業外活動、諸活動活性化について
- ⑥ コスモス通りなどの広報誌について
- ⑦ その他、年度内に教学・学生系業務で決定しなければならない案件処理について

【実施内容】

・構成メンバー

尾畑学務部長、彼谷学務部次長、大谷教授、辻井教授（9月まで：開准教授）、助重准教授、村上准教授、小西講師、大平講師、山崎参事、小比賀呉羽キャンパス事務室事務長、岩木学生課長、酒井教務課長、山田主査（以上13名）

・会議内容

開催日時・場所・出欠	審議事項	報告事項
平成25年4月24日(水) 13:10～15:40 東黒牧C・呉羽C Web会議 出席：14名 欠席：2名	1. 委員の役割分担について 2. 学務部(教務課・学生課)年間行事について 3. 平成25年度奨学生(学業・諸活動)候補者について 4. 平成26年度学則改正(案)について 5. スポーツ文化交流会について 6. 学生団体結成と解散について 7. その他	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会について 4. その他
平成25年5月29日(水) 13:10～14:40 東黒牧C・呉羽C Web会議 出席：14名 欠席：1名	1. アンケートについて 2. DPにかかるマップについて 3. 「夢への架け橋助成事業」について 4. 学生団体結成と解散について 5. その他	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会について 4. その他
平成25年6月26日(水) 15:30～16:50 東黒牧C・呉羽C Web会議 出席：12名 欠席：1名	1. 編入生単位認定について 2. 授業評価アンケートについて 3. その他	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会について 4. その他
平成25年7月24日(水) 13:10～15:10 東黒牧C・呉羽C Web会議 出席：13名 欠席：0名	1. ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーについて 2. 子ども育成学部委託生(研究生)について 3. 学生生活アンケートについて 4. その他	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会について 4. その他
平成25年9月2日(月) 10:00～12:00 呉羽C E館2階会議室	1. ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーについて 2. FD・SDについて	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会について

出席：12名 欠席：1名	3. 後期オリエンテーションについて 4. 平成25年度学年暦の一部変更について 5. 平成26年度学年暦について 6. 平成25年度保護者懇談会について 7. 市民聴講生(後期)の募集要項について 8. その他	4. その他
平成25年9月25日(水) 16:00～18:15 東黒牧C・呉羽C Web会議 出席：13名 欠席0名	1. 平成26年度学年暦について 2. 平成26年度学生便覧・講義要綱について 3. カリキュラム改正について 4. その他	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会について 4. その他
平成25年10月23日(水) 13:10～15:20 東黒牧C・呉羽C Web会議 出席：13名 欠席：1名	1. 学務部アクションプランについて 2. 平成26年度学年暦について 3. 平成26年度学生便覧・講義要綱の編集方針について 4. 団体設立届について 5. その他	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会について 4. その他
平成25年11月27日(水) 13:30～14:50 東黒牧C・呉羽C Web会議 出席：13名 欠席：1名	1. 平成26年度研究生、科目等履修生募集要項について 2. 学則改正について 3. 学生生活アンケートについて 4. その他	1. 平成26年度予算編成方針について 2. 前期授業アンケートについて 3. 教務課からの報告について 4. 学生課からの報告について 5. 学部学務委員会について 6. その他
平成25年12月25日(水) 9:30～11:20 東黒牧C・呉羽C Web会議 出席：13名 欠席：0名	1. 学則改正について 2. 平成26年度研究生、科目等履修生募集要項について 3. 大学コンソーシアム富山の単位互換提供科目について 4. その他	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会について 4. その他
平成26年1月22日(水) 13:15～15:00 東黒牧C・呉羽C Web会議 出席：12名 欠席：1名	1. 学長賞等の推薦について 2. 卒業生アンケートについて 3. 自己点検評価について 4. 平成26年度学則改正に伴う子ども育成学部履修規程(教職課程等)の改正について(案) 5. その他	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会について 4. その他
平成26年2月26日(水) 9:40～11:10 東黒牧C・呉羽C Web会議 出席：13名 欠席：0名	1. 平成26年度講義要綱について 2. 学位記授与式 代表学生について 3. 新年度オリエンテーション(前期)について 4. 平成26年度奨学生(在学生分)について 5. その他	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会について 4. その他
平成26年3月17日(水) 12:45～13:15	1. 学生の懲戒について 2. その他	なし

東黒牧C・呉羽C Web 会議 出席：10名 欠席：3名		
平成26年3月27日(水) 9:30～10:45 東黒牧C 本部棟2階 大会議室 出席：12名 欠席：1名	1. 学生の処分について 2. 第2種奨学金について 3. 大学コンソーシアム富山単位互換 科目について 4. その他	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会について 4. その他

【評価】

教育目標の明確化や教育内容の充実に向けた取り組みが着実に進んだ点で大きな成果がみられた。平成24年度からの課題であったカリキュラムポリシー(CP)、ディプロマポリシー(DP)の整備を行い、ホームページ等で公開した。シラバスについては、各科目のCP・DPや教員のオフィスアワーを掲載するとともに、授業の到達目標を明示し、授業の目標や内容を学生にわかりやすく伝えるよう工夫した。また、子ども育成学部においては大学の教育理念に沿った教育課程の変更とそれへの対応、現代社会学部においては秋季入学への対応と英語教育の強化、インターンシップの充実を目的とした学則改正(配当年次の変更等)を行い、平成26年度からこれらを実施することとなった。

大学祭や学友会活動の充実に向けた取り組みでも大きな進展があった。従来は教職員が主体となって運営してきたスポーツ文化交流会や卒業記念パーティーは、両学部の学友会が主体となって行うようになった。また現代社会学部では、学務委員会と学友会が協議し、平成26年度の新入生オリエンテーションの歓迎行事を学友会が主体となって進めることとなった。東黒牧キャンパスの大学祭に関しては、従来、夏季休業終了直後の3連休に実施しており、準備期間の不足、夏季インターンシップの成果発表や部活動の対外試合との重複が問題となっていたが、10月最終週の土日に行うべく平成26年度の学年暦を調整し、より多くの学生が参加できるように配慮した。呉羽キャンパス「仁友祭」では、学園創立50周年に向けて新設された体育館や校庭を利用し、富山短期大学と協働でステージ発表や模擬店を実施した。

【課題】

平成26年度においては、以下の点が課題となる。

- ① 教育課程の体系性の明示…CP・DPに沿ったカリキュラム・ツリーを作成するとともに、授業科目のナンバリングを導入し学修の段階や 順序等を表し、教育課程の体系性を明示していく。
- ② 奨学生制度の見直し…子ども育成学部においては履修科目数の増加、現代社会学部においては必修科目の増加によって、奨学生継続の判断基準となるGPAが低下傾向にある。現行基準のままでは、入学者の減少や部活動の弱体化にも結びつきかねないので、判断基準の見直しが必要であろう。
- ③ 授業外活動、諸活動活性化…授業外活動やクラブ活動の成果が当事者以外の学生や保護者、地域社会には十分伝わっていないのが現状であるので、活動日程の予告や活動成果の公表を促進し、大学全体を盛り上げていく仕組みをつくっていく必要がある。

その他の点では、次の事項が今後考察していく必要がある。

- ・ウェブによる会議のため、活発な議論となりにくい。
- ・学部内で事前に詰めておく必要がある内容が詰められておらず、会議が長くなる場合がある。
- ・議事内容によっては、運営会議にて先に審議・採決させ、全学学務委員会で報告とする事案も認める。

(2) 教養教育検討部会

【目標】

実務・実学志向の科目配置を推進しているが、昨今の社会情勢などを鑑みると、社会へ旅立つ学生のキャリアに大いに役立つ教養教育の重要性が見直されてきている。

このことを踏まえ、富山国際大学学務委員会規程第8条第2項に規定する事項の中から重要度の高いものから取捨選択して検討していくこととする。

【実施内容】

- ・構成メンバー

彼谷学務部次長(部会長)、尾畑教授、大谷教授、辻井教授、酒井教務課長

- ・会議内容

開催日時・場所・出欠	審議事項	報告事項
------------	------	------

平成 25 年 11 月 27 日 (水) 15:00～15:50 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席：5 名 欠席：0 名	1. 大学コンソーシアム富山単位互換 科目「とやま地域学」にかかる事 業について 2. 次年度に向けての課題について 3. その他	なし
平成 26 年 2 月 26 日 (水) 9:40～11:10 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席：5 名 欠席：0 名	1. 今後の教養教育について 2. 大学コンソーシアム富山に提供す る単位互換科目について 3. その他	なし

【評価】

平成 25 年度は、部会開催回数自体が少ないなか、大学コンソーシアムに関する議題に集中した印象があつた。本学が主体として提供する「とやま地域学」を継続開講すること、また、両学部あわせて 50 科目程度単位互換科目として提供することが確認された。

【課題】

本学における「教養」の位置づけをどう考えるか、また、両学部の垣根を超え、本学の教育理念に基づく教養教育のあり方や科目設定について、引き続き議論する必要がある。

(3) FD 推進部会

【目標】

平成 26 年度は、従来から実施している外部講師によるセミナー型の F D 活動に加えて、教職員参加型の組織的な F D 活動を積極的に行い、これが継続的に実施できる体制の整備を目標とする。

【実施内容】

・構成メンバー

尾畑学務部長、彼谷学務部次長、開准教授、小西講師、酒井教務課長（事務局：山田主査）

・内容

開催日時・場所・出欠	実施内容
平成 25 年 7 月 27 日 (土) 13:00～16:00 富山県民会館 304 号室 現社教員のみ(学長含む) 出席：16 名 欠席：7 名	「第 2 回北陸地区 第 2 回北陸地区 大学・短大連携 F D 研修会」 ・講演：「大学生のリテラシー育成とアクティブ・ニング」 講師：山本 啓一 教授（九州国際大学法部） ・パネルディスカッション「アクティブラーニングの導入とその問題」 コーディネーター：奥田 実 教授 （富山県立大学キャリアセンター所長） パネラー：西山 宣昭 教授（金沢大学大学教育開発・支援センター長） 大谷 孝行 教授（富山国際大学 現代社会学部） 石川 倫子 講師（金沢工業大学 基礎教育部） コメンテーター：山本 啓一 教授（九州国際大学法部）
平成 25 年 9 月 24 日 (火) 13:30～15:50 東黒牧キャンパス 3 号館 301 室 出席：29 名(教員) 24 名(職員) 欠席：16 名(教員)	「平成 25 年度 富山国際大学 F D・S D 研修会」 ・講演：「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」 講師：中島 恭一 学長（富山国際大学） ・講演：「学内学務系システムの概要・活用法への理解を深め、学生に関する情報共有を促進する」 講師：小松 裕史 氏（株式会社 System-D） 宮島 司朗 氏（株式会社 インテック）
平成 25 年 12 月 7 日 (土) 14:00～17:00 富山電気ビルディング 2 階 会議室 本学教員 出席：20 名 欠席：22 名	「第 3 回北陸地区 第 2 回北陸地区 大学・短大連携 F D 研修会」 ・講演：「企業が求める人材像について」 講師：佐々 裕成 氏（YKK 株式会社 副社長・黒部事業所長） ・パネルディスカッション：「インターンシップを中心とした産学連携のあり方及び今後の進め方」 コーディネーター：大西 一成 教授（富山国際大学 現代社会学部）

	パネラー：佐々 裕成 氏（YKK株式会社 副社長・黒部事業所長） 桎野 紀之 氏（金沢信用金庫 常務取締役） 松浦 辰夫 氏（富山県経営者協会 事務局長） 岡崎 英一 教授（福井大学） 村瀬 直幸 教授（富山国際大学 現代社会学部）
--	---

【評価】

平成25年度は、富山国際大学FD・SD研修会を1回、北陸地区 第2回北陸地区 大学・短連携FD研修会を2回開催し、前年度に比べて大きな成果があった。しかしながら、教職員参加型でかつ組織的・継続的なFD活動は、全学としては実施できなかった。なお、現代社会学部においては、3回の教員参加型のFDワークショップと、1回の外部講師によるFD研修会を行っている。

【課題】

平成26年度は、従来型の外部講師によるFD研修会の一層の充実を図り、教職員参加型でかつ組織的・継続的なFD活動を全学的に実施したい。

（4）教職課程委員会

【目標】

教育職員免許状取得の所要資格を得させるために必要な本学の教職課程の運営について審議し、教職課程の履修と実習実施に向けた資格毎の計画立案・事前事後指導、及び履修科目の単位認定を円滑に実施させることを目標とする。全学学務委員会の下部委員会として位置づけられている。

【実施内容】

・構成メンバー

水上委員長、辻井教授、仲井教授、福島(美)教授、彼谷准教授、開准教授、石倉講師、酒井教務課長、小比賀呉羽キャンパス事務長

・会議内容

開催日時・場所・出欠	協議事項
平成25年10月2日(水) 16:40～17:25 呉羽キャンパス2階会議室 出席：8名 欠席：1名	1. 委員長選出 2. 平成25年度前期の実習経過報告、及び4年生の就職内定状況について 3. その他
平成25年11月13日(水) 10:35～11:25 呉羽キャンパス2階会議室 出席：9名 欠席：2名	1. 教職実践演習の観察授業について 2. 介護等体験の状況について 3. 幼稚園教育実習について 4. 教育実習の評価について 5. その他
平成25年12月11日(水) 15:30～16:45 呉羽キャンパス2階会議室 出席：9名 欠席：0名	1. 教員免許申請について 2. 教育実習報告会について 3. その他
平成25年12月18日(水) メール審議	1. 学部の履修規程（教職課程）改正に関して
平成26年1月15日(水) 16:00～17:30 呉羽キャンパス2階会議室 出席：8名 欠席：1名	1. 平成26年度教職課程について 2. 現在学生の履修カルテの実施時期について 3. 教育実習報告会・介護等体験報告会 4. その他
平成26年3月11日(水) 16:00～17:00 呉羽キャンパス2階会議室 出席：7名 欠席：2名	1. 平成26年度子ども育成学部履修規定（教職課程）の一部改正について 2. その他
平成26年3月20日(金)	1. 学生の履修カルテの取り扱いについて

16:45～17:40 CiC サテライト・オフィス 出席：8名 欠席：1名	2. 次年度の委員構成について 3. その他
--	---------------------------

【評価】

現在、教職課程は子ども育成学部で小学校教諭一種免許状と幼稚園教諭一種免許状の課程認定がなされている。教職課程履修者の実習を含めた科目履修状況、授業態度、成績等について、実習指導センターとの緊密な連携により、学生の所要資格取得が円滑に行われているとともに委員会の組織運営も問題なく行われていると評価できる。

【課題】

平成25年度の文部科学省中央教育審議会教員養成部会による課程認定大学視察について、本学が予定されていた12月10日の視察が、文部科学省の都合で延期中止とする知らせが9月に入ったことから、視察準備が途中中断となっている。今年度の視察実施を考慮して、早期に準備を開始し書類等の作成と整備に着手する必要がある。

2. 図書館委員会

【実施計画】

図書館委員会規程に基づき、重要案件を審議する。

【実施内容】

・構成メンバー

上坂館長、浦山教授、成澤教授、原教授（6/12教授会まで：吉田准教授）、仲井教授、後藤准教授、大藪准教授、小西講師、酒井教務課長

・会議内容

開催日時・場所・出欠	協議・報告事項
平成25年5月29日（水） 15：30～17：30 東黒牧C 4号館 402教室 出席：9名 欠席：0名	1. 平成25年度図書館委員の構成について 2. 平成25年度図書館予算について 3. 学生向き教育用・新刊図書の選定について 4. 平成25年度図書館年間計画（案）について 5. その他 （ア）紀要編集要領について （イ）図書館の利用促進について
平成25年7月24日（水） 15：30～17：30 東黒牧C 4号館 402教室 出席：7名 欠席：2名	1. 紀要要領について 2. 図書館検討課題について（利用促進） 3. 「学生向き選定図書」の提出状況について 4. その他
平成25年8月27日（火） 10：00～11：35 東黒牧C 4号館 402教室 出席：7名 欠席：2名	1. 紀要要領について 2. 「学生向き選定図書」の提出状況について 3. その他
平成25年11月26日（火） 16：20～17：20 東黒牧C 4号館 402教室 出席：7名 欠席：2名	1. 平成26年度図書館予算について 2. 「学生向き選定図書」の提出状況について 3. 紀要の申し込み状況について 4. その他
平成26年1月9日（木） メール審議	1. 平成26年度前期図書選定リストの提出依頼について
平成26年3月7日（金） 9：00～10：30 東黒牧C 3号館 303教室 出席：5名 欠席：2名 委任状提出：2名	1. 締め切りの延長措置について 2. 原稿の「抄録（要約）」とキーワードの体裁について 3. 締め切り遵守の喚起について 4. その他

【評価】

平成 25 年度は、メール審議も含め委員会を計 6 回開催し、前年度（3 回開催）と比較して、図書館選定図書や紀要、図書館の利用促進について、よりきめ細かく検討することが出来た。

【課題】

平成 25 年度に引き続き、図書館の利用促進及び選定図書、紀要について検討し、実施したい。

また、図書館の収容スペースについても対策が必要であり、併せて除籍についても、対象及び方法等について検討が必要である。

3. 情報センター運営委員会

【実施計画】

情報センター規程に基づき、年度当初、および予算策定期の 2 回、情報センター運営委員会を実施し、センター運営について協議する。

【実施内容】

・構成メンバー

上坂センター長、尾畑教授、原教授（途中、吉田准教授に交替）、浜松教授、佐藤准教授、高尾准教授、堀江准教授、谷口講師、酒井教務課長、水野教務課主査、宮森情報センター員

・会議内容

開催日時・場所・出欠	協議事項
平成 25 年 5 月 16 日(木) 16:20～17:50 東黒牧 C 402 号室 出席：9 名 欠席：2 名	1. Microsoft Office 365 メールへの移行と状況 2. 平成 25 年度運営事業 執行状況 3. 平成 25 年度特別事業 メインサーバ入替え 4. 平成 25 年度施策 運用・管理とサービス 5. 平成 25 年度予算への申請内容 6. Microsoft サポート終了製品に対する施策 7. 自己点検評価
平成 25 年 11 月 25 日(月) 16:20～17:50 東黒牧 C 402 号室 出席：7 名 欠席：4 名	1. 平成 26 年度(H26)運営事業予算申請内容 2. 平成 26 年度(H26)教育用設備関連特別事業 3. サポート終了主要機器の長期入替計画 4. 平成 26 年度斡旋ノート型 PC 仕様 5. Microsoft サポート終了製品に対する施策 6. コンピュータ機器の老朽化とコンピュータ室の運用 7. アクションプラン

【評価】

5 月と 11 月に情報センター運営委員会を実施し、センター運営について協議した。

特にエンドユーザに関連のある事項については質問・討議が行われるが、サーバおよびネットワークについては大きな質問もなく、また問題なく運用されている事が確認された。

【課題】

情報センター運営会議の開催頻度が年 2 回では不足している面がある。26 年度からは年 4 回程度に回数を増やしていくことを検討する。

4. キャリア支援センター運営会議

【実施計画】

キャリア支援センターの運営に関する規程に基づき、重要案件を審議する。

【実施内容】

参加委員名：村瀬センター長（現代社会学部教員）、鶴山センター次長（子ども育成学部教員）、大西委員（現代社会学部教員）後藤委員（現代社会学部教員）、斉藤委員（現代社会学部教員）、辻井委員（子ども育成学部教員）、室林委員（子ども育成学部教員）、岩木委員（学生課長、9 月委員就任）

場所：東黒牧キャンパスおよび呉羽キャンパスの会議室で WEB 会議

日時および審議事項等：開催

原則月 1 回開催。

開催案内
資料作成、
議事要録等、
・会議内容

会議の1週間前に案内
事務職員が作成
事務職員が作成

25年度は以下の通り、原則毎月1回のペースで合計11回の運営会議が開催された。

開催日時・場所・出欠	実施内容
第1回 I 日時 平成25年4月15日 (月) 16:30 から II 場所 東黒牧キャンパス 本部棟大会議室、 呉羽キャンパス III 出席:7名 欠席:0名	1. 審議事項 (1) 平成25年度キャリア支援センター体制について (2) 平成25年度「企業・事業所・大学講演会」について (3) その他 ① 子ども育成学部一般企業受験予定者の対応について ② 現代社会学部履歴書指導の対応について 2. 報告事項 (1) 平成25年度「キャリア教育」年間予定について (2) 就職内定状況について(平成24年度)
第2回 I 日時 平成25年5月20日 (月) 16:30 から II 場所 東黒牧キャンパス 本部棟大会議室、 呉羽キャンパス III 出席:7名 欠席:0名	1. 報告事項 (1) 企業・事業所。大学講演会について (2) 大連・中国での企業実務研修の募集及び説明会について (3) 平成25年度インターンシップについて (4) 就職内定状況について (5) その他
第3回 I 日時 平成25年6月17日 (月) 16:30 から II 場所 東黒牧キャンパス 本部棟大会議室、 呉羽キャンパス III 出席:7名 欠席:0名	1. 審議事項 (1) 富山県インターンシップの企業別担当教員について (2) 2014年度採用のための大学案内の作業要領について (3) その他 2. 報告事項 (1) 就職内定状況について (2) 大連・中国での企業実務研修のについて (3) 企業見学・第1回模擬面接指導について (4) キャリア支援講座「労働法制」について (5) その他
第4回 I 日時 平成25年7月22日 (月) 16:30 から II 場所 東黒牧キャンパス 本部棟大会議室、 呉羽キャンパス III 出席:7名 欠席:0名	1. 審議事項 (1) 集中模擬面接の評価方法について (2) その他 2. 報告事項 (1) 就職内定状況について (2) 企業見学・第1回模擬面接指導について (3) 保護者就職相談会について (4) 職場訪問研修について(大学コンソーシアム富山) (5) その他
第5回 I 日時 平成25年9月24日 (火) 9:30 から II 場所 東黒牧キャンパス 本部棟大会議室、 呉羽キャンパス III 出席:6名 欠席:1名	1. 審議事項 (1) キャリア支援センター委員の追加について (2) インターンシップの条件変更について (3) 平成25年度企業・事業所・大学講演会について (4) 2014年度採用のための大学案内の進捗状況について (5) その他 2. 報告事項

	(1) 後期キャリア支援センターオリエンテーションについて (2) インターンシップ実施報告書について (3) 就職内定状況について (4) 内定先お礼訪問について
第6回 Ⅰ日時 平成25年10月22日 (火) 16:30から Ⅱ場所 東黒牧キャンパス 本部棟大会議室、 呉羽キャンパス Ⅲ出席:8名 欠席:0名 (学生課長委員追認)	1. 審議事項 (1) 「平成25年度企業・事業所・大学講演会」について (2) インターンシップ評価表について (3) 「平成25年度学内合同企業説明会」開催日時について (4) その他 2. 報告事項 (1) 2014年度採用のための大学案内の進捗状況について (2) 就職内定状況について (3) その他
第7回 Ⅰ日時 平成25年11月19日 (火) 16:30から Ⅱ場所 東黒牧キャンパス 本部棟大会議室、 呉羽キャンパス Ⅲ出席:7名 欠席:1名	1. 審議事項 (1) 「平成25年度企業・事業所・大学講演会」について (2) 平成26年度「キャリア教育」予算について (3) その他 2. 報告事項 (1) 就職内定状況について (2) 平成25年度学内合同企業説明会について (3) その他
第8回 Ⅰ日時 平成25年12月17日 (火) 16:30から Ⅱ場所 東黒牧キャンパス 本部棟大会議室、 呉羽キャンパス Ⅲ出席:8名 欠席:0名	1. 審議事項 (1) 平成26年度「キャリア教育」について (2) その他 2. 報告事項 (1) 平成25年度「企業・事業所・大学講演会」について (2) 平成25年度学内合同企業説明会について (3) 平成26年度予算について (4) 就職内定状況について
第9回 Ⅰ日時 平成26年1月21日 (火) 16:30から Ⅱ場所 東黒牧キャンパス 本部棟大会議室、 呉羽キャンパス Ⅲ出席:8名 欠席:0名	1. 審議事項 (1) 平成26年度「キャリア教育」年間予定について (2) 平成25年度「学内合同企業説明会」について (3) その他 2. 報告事項 (1) 星野リゾート冬季インターンシップについて (2) 就職内定状況について (3) 平成26年度予算について
第10回 Ⅰ日時 平成26年2月18日 (火) 10:00から Ⅱ場所 東黒牧キャンパス 本部棟大会議室、 呉羽キャンパス Ⅲ出席:8名 欠席:0名	1. 審議事項 (1) 平成26年度「キャリア教育」年間予定について (2) 平成26年度「学生便覧」の内容について (3) その他 2. 報告事項 (1) 平成25年度学内合同企業説明会について (2) 就職内定状況について (3) その他
第11回 Ⅰ日時 平成26年3月20日 (火) 10:00から Ⅱ場所 東黒牧キャンパス 本部	1. 審議事項 (1) 平成26年度キャリア関係オリエンテーションについて (2) その他 2. 報告事項

棟大会議室、 呉羽キャンパス Ⅲ出席：8名 欠席：0名	(1) 平成26年度「キャリア教育」年間予定について (2) 就職内定状況について (3) その他
-----------------------------------	---

【評価と今後の課題】

WEB を使い会議が行なわれたが、順調に審議が行なわれた。月1回のペースも適当であった。課題は特になし。

5. 国際交流センター運営会議

【実施内容】

・構成メンバー

才田センター長、湯次長、高橋(哲)教授、福島(美)教授、斎藤准教授、パブリー講師、山崎参事、岩木課長、島口主査(以上9名)

・会議内容

開催日時・場所・出欠	協議・報告事項
平成25年5月30日(木) 16:20~19:30 東黒牧C 図書館棟1F 会議室 出席：9名 欠席：0名	1. 私費外国人留学生減免審査について 2. 留学プログラム参加希望者について 3. 留学生奨学金受給者の推薦について 4. チューターについて 5. 国際交流シンポについて 6. 後期交換留学生の受入について 7. 協定校との協定書更新状況について
平成25年6月17日(月) 10:30~12:00 東黒牧C 図書館棟1F 会議室 出席：10名(鈴木客員教授) 欠席：0名	1. 国際交流フォーラムの企画案について
平成25年7月1日(月) 10:00~11:30 東黒牧C 図書館棟1F 会議室 出席：8名 欠席：1名	1. 国際交流フォーラムの企画の決定について 2. PSU との協議について
平成25年8月8日(木) 10:00~12:00 東黒牧C 図書館棟1F 会議室 出席：9名 欠席：0名	1. 国際交流フォーラムのチラシ案の検討 2. カナダの語学教育機関との協定について 3. 中国留学中の学生の留学延長について 4. 後期短期留学生の受け入れ予定者について
平成25年9月26日(木) 15:30~18:00 東黒牧C 図書館棟1F 会議室 出席：9名 欠席：0名	1. 海外協定校について 2. 学習奨励費(追加分)、民間奨学財団への推薦について 3. 国際交流フォーラムについて 4. 後期交換留学生の担当教員について
平成25年11月11日(月) 14:40~17:30 東黒牧C 図書館棟1F 会議室 出席：8名 欠席：1名	1. 南通大学との学術交流協定締結について 2. JASSO 海外支援制度応募について 3. 国際交流フォーラムの流れと役割分担の確認
平成25年12月24日(火) 10:40~12:45 東黒牧C 図書館棟1F 会議室 出席：8名 欠席：1名	1. 海外大学との学術交流協定締結について 2. 国際交流フォーラムの総括について 3. 26年度短期交換留学生について 4. 後期海外実習について
平成26年1月27日(月) 10:40~12:10 東黒牧C 図書館棟1F 会議室	1. 富山国際大学アクションプランの実現について 2. 25年度自己点検評価報告書について

出席：9名 欠席：0名	
平成26年2月18日（火） 10：40～12：10 東黒牧C 図書館棟 1F 会議室 出席：9名 欠席：0名	1. 富山国際大学アクションプランの具体策の検討について 2. 新たな海外留学支援制度について 3. オリエンテーションの説明内容の検討について
平成26年3月24日（月） 10：00～12：30 東黒牧C 図書館棟 1F 会議室 出席：9名 欠席：0名	1. 新たな海外留学支援制度について 2. 私費外国人留学生減免審査について 3. オリエンテーション等の説明について 4. 中国の協定校との交流進展報告について 5. 英語検定受験促進案について

【評価・課題】

25年度は10回の運営会議を開催した。毎月の開催を目指したい。